

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
総合研究報告書

HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および
相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂

研究代表者 氏名 : 山野 嘉久
所属機関 : 聖マリアンナ医科大学医学部脳神経内科学
職名 : 主任教授

研究要旨

【目的】

本研究は、HAM および類縁疾患の診療水準向上と患者 QOL 向上を目的としている。先行研究で明らかになった HAM 診療における課題（診療経験の少なさ、HTLV-1 感染に関する認知度の低さ、バイオマーカー測定の困難さ）を解決するため、運営するレジストリ（HAM ねっと）を活用した主治医への検査支援や相談対応による診療連携体制の強化を目指した。また、HAM ねっとを基盤とした患者相談体制の構築や、疫学情報と患者 QOL 等の現状把握も目的としている。さらに、AMED エビデンス創出班で得られた最新エビデンスに基づき、「HAM 診療ガイドライン」を 2024 年度目標に改訂することも重要な目的とした。加えて、最近バセドウ病との関連で重要な知見が得られた HTLV-1 ぶどう膜炎（HU）に関して他の類縁疾患同様に患者レジストリを構築し、疫学特性の解明を目指す。

【方法】

本研究は、以下の 3 つのテーマに分けて実施された。① HAM 診療ガイドラインの改訂：Minds の診療ガイドライン作成マニュアルを活用し、GRADE アプローチに基づいて作成を進めた。② HAM ねっとを基盤とした診療連携体制の強化：HAM の診療に重要なバイオマーカー測定を可能にした「新 HAM ねっとの構築と運営」および「主治医相談支援および患者相談支援のためのホームページ改修」を中心に、従来から継続している「HAM ねっとデータを用いた疫学調査」を実施した。③ HU 患者レジストリの構築と疫学解析：研究プロトコールを協議し、HTLV-1 感染者レジストリ（JSPFAD）（研究代表者：山野嘉久）内に HU レジストリを構築した。

【結果と考察】

① HAM 診療ガイドラインの改訂

2022 年度はエビデンス集積状況に即して、追加すべき重要臨床課題を抽出した。2023 年度は重要臨床課題を含む「HTLV-1 関連脊髄症（HAM）診療ガイドライン 2025 改訂版」のスコープ案を作成し、作成委員会メンバー全員の同意を得た。2024 年度はスコープ案を元に、意見交換会を実施し、システムティックレビュー後のサマリーレポート・推奨文章案をパネル会議で議論する等して「HAM 診療ガイドライン 2025 改訂版」の原

稿が完成した。ガイドライン自体は基本情報（第1章）、HAMの薬物療法に関するCQと推奨（第2章）、エビデンス不十分な重要臨床課題に関するQ&A（第3章）、患者と医療者の共有意思決定に関する内容（第4章）から構成された。主な改訂ポイントとして、ステロイドパルス療法に関する推奨文がエビデンス蓄積により追加された。HAM診断アルゴリズム・治療アルゴリズムも改訂され、それに合わせて疾患活動性の再評価、ATLを含む合併しやすい疾患の定期的なスクリーニング、HAMの妊娠・出産など、新しい内容のQ&Aが追加された。また、2022年度に報告したHTLV-1感染細胞のクローナリティ解析法（RAISING法）がATLの発症リスク評価に有用であることも掲載された。さらに、意見交換会にて患者本人の意思が十分に考慮されない診療の事例が共有されたことを経て、患者と医療者の対等な関係性や共に治療方針を決定するプロセスである共有意思決定をテーマとした第4章が新設された。このように、患者中心の質の高い診療実現に向けた多角的な改訂ができた。

② HAMねっとを基盤とした診療連携体制の強化

「新HAMねっとの構築と運営」に関して、2025年3月31日時点で125施設の共同研究機関登録が完了し、順調に数を増やしている。都道府県別にみると47都道府県のうち40都道府県をカバーしており、新HAMねっとの実施によりHAMの全国診療ネットワークの構築につながっている。登録患者数も678名に達し、検査件数や主治医からの相談対応も順調に増加している。また、ホームページの改修により、主治医や患者への情報提供も強化された。さらに「HAMねっとデータを用いた疫学解析」では、HAM患者の発症年齢が1980年代の33.6歳から2010年代には56.9歳へと高齢化し、若年発症が減少していることが明らかとなつた。また、発症年齢が高いほど急速進行型（運動障害発現からOMDS Grade 5への移行2年以下）の割合が増加しており、これは発症年が新しいほど急速進行型が多いという結果とも一致した。さらに、発症から診断までの期間は、1980年代の平均13.7年から年代が進むにつれて有意に短縮し、2010年代では平均2.5年まで短縮し、診断年のOMDS（重症度）も軽症化傾向も見られた。こうした若年発症の減少は、母子感染対策や国のHTLV-1総合対策の成果を示唆している一方で、発症年齢の高齢化と急速進行型の増加は、水平感染による高齢発症者の割合増加を示唆しており、今後の水平感染対策の重要性が示唆される。また、診断ラグの短縮と診断時重症度の軽症化は、患者会活動や国の対策に加え、レジストリ展開による全国診療ネットワーク形成推進が影響していると考えられる。QOL評価では、HAM患者のEQ-5D-5Lスコアは 0.499 ± 0.217 であり、同年代の日本人一般集団と比べて、疾病/症状の最小重要差（minimal important difference : MID）の推定値（0.05-0.1）以上に大きく低下していた。QOL低下への影響は、移動の程度が最も大きく、ふだんの活動や痛み/不快感も大きく影響していた。こうしたHAMのQOLや機能予後の改善において運動療法・リハビリテーションによる運動障害の進行抑制は重要である。2022年度の調査で、OMDS Grade 5（片手杖レベル）の患者で運動療法・リハビリテーションの実施割合が低い実態が明らかとなり、介護保険の年齢制限が影響している可能性が示唆された（詳細は総合研究分担報告書参照 担当：高田礼子）。

③ HUレジストリの構築と疫学解析

HUレジストリをHTLV-1感染者レジストリ（JSPFAD）内に構築し、2025年3月末時

点で HU 患者 214 名、HTLV-1 陽性バセドウ病患者 46 名を登録、データ収集を継続している。別の長崎県五島コホートを用いた解析では、HTLV-1 感染者のぶどう膜炎発症リスクが非感染者の約 3 倍であることを明らかにしている。

【結論】

本研究班は、AMED エビデンス創出班による新たな知見を反映し、「HAM 診療ガイドライン 2025 改訂版」を作成した。これにより、日本全体の HAM 診断・治療水準の向上を目指しており、今後は改訂ガイドラインの普及が重要な課題である。診療経験が乏しい医師が多いという先行研究の指摘に対し、新 HAM ねっとの参加施設や検査依頼の増加から旧ガイドラインの普及効果が認められる。また、主治医および患者双方への相談支援体制を整備・強化し、全国の患者の QOL 向上に貢献する基盤が構築された。この支援体制は、今後のガイドラインを迅速に普及させることにも資するものである。さらに、HU 発症とバセドウ病の因果関係解明のため、HTLV-1 感染者レジストリ内に HU レジストリを構築し、継続的なデータ収集を進めている。

以上、これらの取り組みは全国の診療体制強化と HTLV-1 総合対策の前進に寄与するものである。

研究代表者

山野 嘉久 聖マリアンナ医科大学脳神経内科学・主任教授

研究分担者

中山 健夫 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野・教授

原 誠 日本大学医学部神経内科・准教授

松下 拓也 九州大学大学病院・講師

磯部 紀子 九州大学大学院医学研究院神経内科学・教授

青木 正志 東北大学大学院医学系研究科神経内科・教授

川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻リウマチ・膠原病内科学・教授

湯沢 賢治 国立病院機構水戸医療センター臨床研究部・移植医療研究特任部長

水野 敏樹 京都府立医科大学大学院医学研究科・教授

笠井 高士 京都府立医科大学 大学院医学研究科脳神経内科学 准教授

中村 龍文 長崎国際大学人間社会学部・教授

久保田 龍二 鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター神経免疫学分野・教授

松浦 英治 鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系神経病学講座神経内科・老年病学・客員研究員

松尾 朋博 長崎大学病院泌尿器科腎移植外科・講師

高田 礼子 聖マリアンナ医科大学予防医学教室・主任教授

田辺 健一郎 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター・准教授

鴨居 功樹 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科眼科学・講師

中島 孝 国立病院機構新潟病院脳神経内科・院長

村井 弘之 国際医療福祉大学医学部脳神経内科学・教授（代表）

内丸 薫 東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授

坪井 義夫 順天堂大学大学院医学研究科・特任教授

石原 聰 琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学・助教

新野 正明 国立病院機構北海道医療センター臨床研究部・部長
永井 将弘 愛媛大学医学部附属病院臨床研究支援センター・特任教授
梅北 邦彦 宮崎大学医学部内科学講座呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野・准教授
竹之内 徳博 関西医科大学医学部微生物学講座・准教授
佐々木 信幸 聖マリアンナ医科大学医学部リハビリテーション医学・主任教授
曾根 正勝 聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科学・主任教授
勝野 雅央 名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・教授
佐藤 克也 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻保健科学分野（神経内科学専攻）・教授

A. 研究目的

我々はこれまでに HTLV-1 関連脊髄症（HAM、告示番号 26）および類縁疾患である HTLV-1 陽性リウマチ、HTLV-1 陽性臓器移植について、エビデンスに基づいた「HAM 診療ガイドライン 2019」を作成した。本ガイドラインは、Minds による AGREE II (Appraisal of Guidelines for Research and Evaluation II) でも高い評価を得たが、診療ガイドラインに基づく医療水準の向上および全国の患者の QOL 向上へと結びつけるためには、普及活動を続けて診療現場への導入を図り、また診療ガイドラインの活用実態や有効性を客観的・定量的に評価して改善していく必要がある。そのため先行研究では、HAM 診療ガイドラインの実践度を評価する診療の質評価指標（Quality Indicator; QI）を作成し、全国の脳神経内科専門医を対象としたアンケート調査を行った。その結果、診療ガイド

インの認知度は高いものの、HAM の診療経験が少ないと、HTLV-1 感染に関する認知度が低いこと、HAM の疾患活動性評価に重要なバイオマーカーの測定ができないことなどの問題が明らかになった（臨床神経学 2023）。そこで本研究では、我々が運営する HAM および類縁疾患のレジストリを活用し、主治医に対して検査支援、検査結果等の相談受け入れ等を行うことで、診療連携体制の強化をはかる。

また患者支援については、診療ガイドラインの内容をわかりやすく解説する患者相談体制の構築を目指す。患者 QOL の現状についても検証する。さらに、AMED エビデンス創出班（研究代表者 山野）にて、診療ガイドライン改訂に資する重大なエビデンスが得られたため、本研究では 2024 年度を目標に診療ガイドラインの改訂を目指す。

また、HTLV-1 関連疾患である HU ぶどう膜炎（HU）はバセドウ病との合併が多く、バセドウ病の発症あるいはその治療薬が重度の HU を誘発する可能性があるという知見が蓄積し重大な問題として認識され始めている。HU は HAM との合併も多いため、本研究にて他の類縁疾患と同様に HU レジストリを構築し、その疫学特性を明らかにする。

B. 研究方法

本研究では、テーマ（内容）を大きく 3 つにわけ、以下の体制で実施する。

【役割分担】

テーマ 1 : HAM 診療ガイドラインの改訂
テーマ 2 : HAM ねっとを基盤とした診療連携体制の強化

テーマ 3 : HU レジストリの構築と疫学解析

テーマ 1 の担当 : ガイドライン専門家（中山）

テーマ1と2担当：原、青木、川上、湯沢、久保田、松浦、松尾、鴨居、中島、村井、内丸、坪井、石原、新野、永井、梅北、竹之内、佐々木。2022年度のみ：松下、水野、中村、2023–2024年度：磯部、笠井、佐藤、勝野

テーマ3の担当：鴨居、曾根

テーマ1～3を担当：山野、疫学専門家（高田）、生物統計家（田辺）、患者会代表（菅付、石母田）

研究協力者は、多角的な検討を実現するために専門領域や地域性などの多様性に配慮して選出する。

【具体的方法】

1. HAM 診療ガイドラインの改訂

ガイドラインの作成方針は、HAM 診療ガイドライン 2019 に準ずる。すなわち Minds 診療ガイドライン作成マニュアルの最新版である 2020 ver3.0 を活用し、GRADE アプローチに基づいて作成する。この方針の元、利益相反を確認してガイドライン作成委員会を設立し、AMED エビデンス創出班（研究代表者 山野）等にて得られた新規のエビデンスを参考に、重要臨床課題を抽出し、これらの情報を元に「HTLV-1 診療ガイドライン 2025 改訂版」のスコープ案を決定した。今年度は、このスコープ案に則って、HAM 診療ガイドライン 2025 改訂版の作成を進めた。

まずガイドライン作成委員会は、本研究班の班員を中心に、委員長、委員、作成協力者、システムティックレビュー委員、外部委員（診療ガイドライン作成方法専門家）、評価・調整委員から構成された。構成員には患者、神経内科医、泌尿器科専門医、眼科専門医、理学療法士、HTLV-1 の研究者などさまざまなステークホルダーを含めた。ガイドライン作成委員会は、スコープ案をもとにしたキックオフミーティングから始まり、2回の意見交換会と2回のパネル会

議を行った。会議はすべて web 開催とした。アウトカムの重要性評価は google フォームを用いて実施した。パネル会議はシステムティックレビューのサマリーレポートおよび推奨文章案について議論し、推奨を決定するための投票には Zoom の投票機能を用いた。作成されたガイドライン草案は作成委員会で承認を受けた後、2025年3月に日本神経学会をはじめ、関連・協力学会（日本神経治療学会、日本神経免疫学会、日本神経感染症学会、日本 HTLV-1 学会、日本リウマチ学会、日本移植学会）の外部評価を受けた。その後、必要な修正を行い、掲載内容が決定した。

2. HAM ねっとを基盤とした診療連携体制の強化

a) 新 HAM ねっとの構築と運営

従来の電話による聞き取り調査に加えて、HAM 診療ガイドラインで推奨した重要な検査（髄液 CXCL10 濃度、ネオプテリン濃度等）を HAM ねっとに参加することで可能となるような研究体制として新 HAM ねっとを構築し（第 4417 号）、共同研究機関の登録を進めた。

b) 主治医相談支援および患者相談支援のためのホームページ改修

厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症予防接種政策推進研究事業）『「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究』研究班（代表：渡邊俊樹）と共同で、HTLV-1 に関する全ウェブサイトの見直し・統合を実施した。その中で、HAM ねっとも旧サイトから新サイトへの移動し、それに伴い内容の刷新を行った。その後、継続的な見直し、運営を行った。

c) HAM ねっとデータを用いた疫学的解析 HAM の診療ガイドライン改訂に必要な情

報を得るために、HAM 患者レジストリ「HAM ねっと」に登録された患者について、11 年間（本研究班としては 10~12 年目の 3 年間）の追跡調査で得られた疫学情報の解析を実施した。「HAM ねっと」に登録後、電話での聞き取り調査が完了した患者のうち、1 年目調査（登録時点）では 688 名、2 年目調査では 643 名、3 年目調査では 597 名、4 年目調査では 546 名、5 年目調査では 512 名、6 年目調査では 470 名、7 年目調査では 427 名、8 年目調査では 378 名、9 年目調査では 338 名、10 年目調査では 259 名、11 年目調査では 192 名、12 年目調査では 163 名のデータについて疫学的解析を行った。その際、HAM 患者の運動障害重症度について、OMDS と IPEC-1 の歩行パートとの整合性を図るため、OMDS Grade 5 のうち、IPEC-1 の歩行パート Grade 4 に該当する場合を OMDS Grade 5.5（ときどき両手によるつたい歩き）に細分化した modified OMDS（mOMDS）を用いて評価を行った。

d) 患者 QOL 調査

HAM 患者レジストリ「HAM ねっと」に登録され、SF-36 のデータがある 538 人を対象とした。SF-36 に関して、下位尺度 8 項目：身体機能、日常的役割機能（身体）、体の痛み、全体的健康感、活力（Vitality: VT）、社会的生活機能、日常的役割機能（精神）、心の健康を評価し、更に SF-36 から SF-6D を算出した。年齢や性別、治療経過、HAM の主症状（歩行障害、下肢の痛みと痺れ、排尿障害、排便障害）に関する HAM ねっとデータを用いた。評価項目は①HAM 患者の HRQoL（SF-36 および SF-6D）、②HAM の主症状が HRQoL に与える影響とした。2023 年度—2024 年度には、もう 1 つの包括的健康関連 QOL 尺度である EQ-5D-5L スコアを評価した。

3. HU レジストリの構築と疫学解析

対象は、HU 患者および HTLV-1 陽性バセドウ病患者である。HU 患者は研究分担者（鴨居）が全国的なネットワークを有しており、バセドウ病患者は日本内分泌学会（担当：曾根）と連携する。プロトコールを作成するためのレジストリの収集項目を含めたプロトコール骨子を決定し、HTLV-1 感染者レジストリ（JSPFAD）（研究代表者：山野嘉久）に HU レジストリを構築した。

（倫理面への配慮）

本事業で実施する研究は、聖マリアンナ医科大学もしくは京都大学ならびに各研究実施施設の生命倫理委員会で承認されている。いずれの研究も同意書を用いて、不利益や危険性の排除などに関するインフォームドコンセントを行った。また検体や患者情報は、個人情報管理者が番号化するため、データの解析においては提供者を特定できないようにして、患者の人権擁護に十分な配慮を尽くした。

C. 研究結果

1. HAM 診療ガイドラインの改訂

本研究班の 3 年間に AMED エビデンス創出班と共同で、HAM に対するステロイド内服治療のランダム化比較試験の報告（Viruses 2022）、rTMS 療法の後ろ向きコホート研究の報告（NeuroRehabilitation 2022）、ATL 発症リスク評価における HTLV-1 クローナリティの有用性の報告（Commun Biol, 2022）、ロボットスーツ HAL の医療機器承認（2022 年）、HAM と遺伝性痙性対麻痺の鑑別方法（Neurol Genet 2024）、HAM の診断基準に有用な脳脊髄液 HTLV-1 抗体検査法（Viruses 2024）など新規エビデンスの創出・収集に努め、HAM 診療ガイドラインの改訂版に反映した。2022 年度はエビデンス集積状況に即し

て、追加すべき重要臨床課題を抽出した。2023年度は重要臨床課題を含む「HTLV-1関連脊髄症(HAM)診療ガイドライン2025改訂版」のスコープ案を作成し、作成委員会メンバー全員の同意を得た。2024年度はスコープ案を元に、意見交換会を実施し、システムティックレビュー後のサマリーレポート・推奨文章案をパネル会議で議論する等して「HAM診療ガイドライン2025改訂版」の原稿が完成し、南江堂にて出版準備中である(資料1)。

本診療ガイドラインは、4章から構成されている。第1章には、HAM患者及びHTLV-1陽性患者を診療する上での基本情報を探載した。第2章には、成人HAM患者の薬物療法に関するクリニカルクエスチョン(c clinical question : CQ)について、システムティックレビューとパネル会議を経て決定した推奨文を掲載した。第3章には、エビデンスが不十分で推奨が作成できないが、重要な臨床課題をQ&A形式で解説した。第4章には、患者と医療者の共有意思決定(SDM)に関する内容を掲載した。エビデンスが不十分で推奨を提示できない重要な臨床課題が多くあったが、基本情報やQ&Aを掲載することで、診療現場の支援となるように努めた。

今回の改訂の主なポイントは以下の通りである。

- 1) ステロイドパルス療法に関する推奨文の提示: 2019年版作成時点でエビデンスの不足により提示できなかった推奨文が追加された(第2章CQ2参照)。
- 2) HAM診断アルゴリズムの改訂: 抗HTLV-1抗体検査PA法4倍に代わるHAMの診断の目安となる陽性基準が提示された。
- 3) HAM治療アルゴリズムの改訂とQ&Aの追加: 治療後など必要に応じた疾患活動性の再評価、ATLを含めHAMに合

併しやすい疾患のスクリーニングの定期的な実施、HAMの妊娠・出産など、いくつかの新しい内容が追加された。また、最新のエビデンスとして、RAISING法などHTLV-1感染細胞のクローナリティ解析がATLの発症リスク評価に有用であること(資料2)も掲載した。

- 4) 共有意思決定をテーマとした第4章の新設: 患者本人の意思を考慮せず治療方針が決定された事例が共有され、患者と医療者の対等な関係性や、共に治療方針を決定していくプロセス、いわゆる患者と医療者の共有意思決定(shared decision making: SDM)が必ずしも実行されていないのではないかとの議論を経て、章の新設に至った。これらHAMの診療に関することはもちろん、HTLV-1陽性関節リウマチおよびHTLV-1陽性臓器移植に関する診療の対応についても加筆修正された。

2. HAMねっとを基盤とした診療連携体制の強化

a) 新HAMねっとの構築と運営

2025年3月31日時点で125施設の共同研究機関登録が完了し、順調に数を増やしている。これらの施設から測定依頼のあつた検査はすべて実施し報告できた。全登録患者は678名に達した。また、主治医からの検査結果にもとづく治療方針等の相談については、2023年度3件、2024年度4件の相談対応を行った。さらに、HAMねっとの臨床情報・生体試料を提供する「共同研究申込み」ページ(https://htlv1.jp/hamnet/hamnet_researcher/)より、1件の共同研究の申込みを受けた。運営会議にて承認が得られ、共同研究が開始された。

b) 主治医相談支援および患者相談支援のためのホームページ改修

2022年度にHTLV-1に関連する全ウェ

ブサイトの見直し・統合があったため、HAM ねっとについても HTLV-1 情報ポータルサイト内 (<https://htlv1.jp/hamnet/>) に設置し直し、HTLV-1 関連サイトからの遷移が容易にできるように改修を行った。主治医からの相談支援については、新 HAM ねっとの共同研究機関登録方法、検査依頼後の相談申し込み方法をホームページに掲載した。患者からの相談支援については、既存の HTLV-1 関連サイトに掲載されている Q&A の内容を再構成し、最新の情報に修正した。HAM に関する基礎的情報は、HTLV-1 情報ポータルサイト内に、HAM 独自の情報については HAM ねっと内に Q&A を設置するよう内容の検討を行った。また、診療ガイドラインの内容を平易にした患者向け冊子をダウンロードできるようにした（資料 3）。2023 年度以降、継続的にお知らせなどの更新を行い情報発信に努めた他、HAM ねっと患者向けページ

（https://htlv1.jp/hamnet/hamnet_patient/）、HTLV-1 全体の e-learning ページ（<https://htlv1.jp/e-learning/ham/>）に HAM 患者に対するリハビリテーションの動画を掲載し、HAM 患者にとって有用で正確な情報を提供した。

c) HAM ねっとデータを用いた疫学的解析

HAM 患者レジストリを活用した疫学解析において、登録患者の発症年齢（平均 \pm SD）は、 45.9 ± 15.2 歳であったが、発症年別にみると 1980 年代の発症年齢は 33.6 ± 8.9 歳であったのに対し、1990 年代は 43.9 ± 12.1 歳、2000 年代は 51.5 ± 12.4 歳、2010 年代は 56.9 ± 11.1 歳であり、年代が進むと発症年齢は有意に高くなっていた。さらに 2010 年代になると 20 歳代以下の発症が見られなかった。また、発症年齢が高くなるほど急速進行型（運動障害発現から OMDS Grade 5 への移行年数が 2 年以下）

の割合が増えており、30 代までは急速進行型の割合は 10% 未満であったが、40 代で 15.5%、50 代で 26.9%、60 代で 39.0%、70 代で 54.8%、80 代では 100% となっていた。これらの点を反映し、発症年が最近になるほど急速進行型の割合が多く、2010 年代の発症者は 34.4%、2000 年代は 26.7% が急速進行型であった。

次に、登録患者の HAM の発症から診断までの期間と発症年別の関連を検討したところ、診断までに 1980 年代は平均 13.7 年であったが、年代が進むにつれて有意に短縮し、1990 年代では平均 8.9 年、2000 年代では平均 5.2 年、2010 年代では平均 2.5 年、2020 年代は現時点で平均 1.0 年であった。この点に関連して、発症年別に、診断年の OMDS を確認すると、1970 年代の発症では診断年の OMDS（平均）は 4.2 であり、1980 年代の発症では OMDS 3.3、1990 年代の発症では OMDS 3.5、2000 年代の発症では OMDS 3.3、2010 年代の発症では OMDS 2.9 であった。

2022 年度のみ、運動療法・リハビリテーションと自主トレーニングに関して実態調査を行った。その結果、HAM 登録患者の約 6 割が運動療法・リハビリテーションを行っており、そのうちの約 7 割が自主トレーニングも行っていた。OMDS Grade 6、7（両手杖レベル以上）の重症な患者では運動療法・リハビリテーションと自主トレーニングのいずれも行っている者の割合が高かった。一方、OMDS Grade 5（片手杖レベル）では自主トレーニングのみの者の割合が高く、運動療法・リハビリテーションを行っている者の割合が低かった。

d) 患者 QOL 調査

健康関連 QOL (HRQoL) 調査の対象となった HAM 患者の属性は平均年齢 62 歳、平均罹患期間 16.5 年、74.7% が女性であった。OMDS の中央値は 5 であった。下肢の

痛み・痺れはそれぞれ 42.7%、67.1%に認めた。排尿障害は 92.1%に認め、排便障害は 77.9%に認めた。HAM 関連症状の重症度や症状を有する患者割合は、OMDS の悪化とともに増加していた。HAM 患者における SF-6D 0.565 は、同年代（60-69 歳）の日本人における SF-6D 0.674 よりも有意に低く ($p<0.001$)、その差 0.109 は臨床における最小重要差（Minimal Important Difference: MID）の 0.05-0.1 を超えていた。SF-36 の下位尺度も、「心の健康」を除いて国民標準値 50 より有意に低かった ($p \leq 0.001$)。SF-6D と HAM 主症状との関連を年齢と性別で調整した多変量解析により検討したところ、全ての症状が SF-6D の値の低下と有意に関連しており、特に OMDS 0-4 の群と比較して OMDS 5,6,7-13 の群、下肢の痛みが無い群と比較して持続する群での影響が大きいことが判明した。SF-36 の下位尺度についても同様に検討したところ、OMDS 0-4 の群と比較して OMDS 5 以上で「身体機能」、「日常的役割機能(身体)」、「全体的健康感」、「社会的生活機能」が有意に低下していた。「日常的役割機能(精神)」と「心の健康」は OMDS に関連していなかった。下肢の痛みや痺れは SF-36 の全ての下位尺度の低下に関連していた。排尿障害は「身体機能」、「全体的健康感」、「活力」、「心の健康」の低下に関連し、排便障害は「身体機能」の低下に関連していた。また、もう 1 つの包括的健康関連 QOL 尺度である EQ-5D-5L スコアを HAM 患者で評価した結果、HAM 患者全体（年齢（平均±SD） 67.2 ± 10.8 歳、OMDS Grade（平均±SD） 6.0 ± 2.4 ）の EQ-5D-5L スコア（平均±SD）は 0.499 ± 0.217 であった。

※詳細は総合研究分担報告書（HAM 患者登録システム（新 HAM ねっと）を用いた HAM の疫学的解析：高田礼子）を参照。

3. HU レジストリの構築と疫学解析

HTLV-1 感染者レジストリ（JSPFAD）（研究代表者：山野嘉久）に HU レジストリを構築し、HU 特有の収集項目を追加し、HU 患者レジストリを開始した。2025 年 3 月 31 日時点では HU 患者 214 名、HTLV-1 陽性バセドウ病患者 46 名の登録を達成し、データ収集を継続した。また長崎県五島コホートデータを基にロジスティック回帰分析を用いた年齢・性別調整モデルにより、HTLV-1 感染者では非感染者と比較してぶどう膜炎発症リスクが 3 倍高いことを証明した（J Med Virol 2024）。

D. 考案

本研究班では次の 3 つのテーマを取り組んでいる。1 つ目が、AMED 山野班から創出されたエビデンスに基づき HAM 診療ガイドラインの改訂を目指すこと、2 つ目が HAM および類縁疾患のレジストリを活用した主治医に対する検査・検査結果相談支援、患者に対する患者相談体制の構築により診療連携体制の強化をはかること、3 つ目が HU はバセドウ病との合併が多く、バセドウ病の治療薬が HU を誘発する可能性があることから、HU レジストリを構築し疫学特性を解明する。それこれまで得られた結果について考察を加える。

1. HAM 診療ガイドラインの改訂

HAM は希少疾患であり、いわゆる common disease と比べて研究者の数は限定的である。それにも関わらず、「HAM 診療ガイドライン 2019」発刊後の 6 年間にステロイド内服治療のランダム化比較試験や新規検査法（RAISING 法）の開発に加え、HAM と遺伝性痙性対麻痺の鑑別方法や髓液抗 HTLV-1 抗体検査の診断カットオフ値などの新規エビデンスが創出され、これらを反映した「HAM 診療ガイドライン

2025 改訂版」を作成することができた。これは AMED 研究班とうまく協調することで可能になったと考えられる。現在、疾患活動性の把握に重要な髄液 CXCL10 濃度を HAM ねっとの活動の一環として中央測定しているが、我々と企業で共同開発した CXCL10 ELISA キットが体外診断用医薬品製造販売承認され、近い将来保険承認されることが見込まれる。今回の改訂版では、これを見越して ELISA キットで測定した値に基づいた疾患活動性分類基準を掲載するとともに、診断時だけでなく治療後にも疾患活動性を再評価する必要性を認めることから、その点を治療アルゴリズムに反映し、疾患活動性の評価のタイミングに関する Q&A を第 3 章に設けた。これ以外にも、HAM 患者の妊娠・出産に関する新たな Q&A も追加する等、より質の高い HAM の診療を実現するためのガイドライン改訂を行うことができた。

2. HAM ねっとを基盤とした診療連携体制の強化

a) 新 HAM ねっとの構築と運営

順調に共同研究機関の登録数が伸びている。これを都道府県別にみると 47 都道府県のうち 40 都道府県をカバーしており、新 HAM ねっとの実施により HAM の全国診療ネットワークの構築につながっている。また、これまでの HAM ねっとでは聞き取り調査項目に基づく疫学解析しか実施できなかったが、新 HAM ねっとが拡大することにより、疫学情報を検査データとリンクさせた形での解析が可能となり、新たな発見が期待される。

b) 主治医相談支援および患者相談支援のためのホームページ改修

ホームページ改修は、さまざまな方面での効果が期待できる。まず、HTLV-1 情報ポータルサイト (<https://htlv1.jp/>) 内に、

新 HAM ねっとを含む HTLV-1 関連の web サイトが集約されたことによって、Q&A を含め、HAM 患者とその家族（キャリアを含む）にとって有用で正確な情報源を提供できるようになった。特に新 HAM ねっとは、共同研究機関登録方法、検査依頼後の相談申し込み方法を掲載したことにより、共同研究機関の登録数が伸びており、また主治医からの検査結果に関する相談も稼働している。さらに、臨床情報や生体試料を研究に用いた場合に共同研究の申込みができるようにし、実際に申込みもあり、HAM および HTLV-1 の研究分野の活性化も期待される。このようにホームページを活用しながら HAM ねっとの運営を続けることで、HAM の全国診療ネットワークの構築が実現し、全国 HAM 患者に対する恩恵となることが期待される。

c) HAM ねっとデータを用いた疫学的解析

HAM 患者レジストリを活用した疫学解析において、1990 年代までは 20 歳代での発症が一定数認められていたにも関わらず、2000 年代以降は 20 歳代での発症が減少し始め、2010 年代では 10 歳代、20 歳代の発症は認められなかつた。これは 1980 年代から高侵淫地域を中心に開始された母子感染対策、2009 年の HAM の指定難病認定、2010 年に開始された HTLV-1 総合対策の成果を示唆している。また、HAM の発症から診断までにかかった年数は、年代が進むにつれ有意に短縮され、診断時の重症度も軽症化していることから、HAM の診断が以前よりも短期間に、より早期の段階で下されるようになった。この点は、これまでの全国 HAM 患者会の活動や HAM の指定難病の認定、HTLV-1 総合対策などの国の対策に加え、HAM 患者レジストリの展開による全国レベルの HAM 診療ネットワーク形成の推進が診断ラグの短縮に影響していると考えられた。本研究で行った診療

ガイドラインの普及による HAM の医療水準の均てん化により今後の更なる効果が大きいに期待される。

また、平均発症年齢が 1980 年代の 33.6 歳から 1990 年代は 43.9 歳、2000 年代は 51.5 歳、2010 年代は 56.9 歳と、年代が進むにつれ発症年齢は有意に高くなっていた。また、HAM の「高齢発症」は進行が速いことが多く、予後不良因子の 1 つであるが、実際、急速進行型の割合が増加していた。この点は母子感染による若年発症者が減少し、相対的に水平感染による高齢発症者の割合が増加した可能性があり、今後の水平感染対策の重要性を示唆している。

HAM の運動障害は経年的に悪化しているため、HAM の機能予後および QOL の改善において運動障害の進行抑制は重要である。そのためには運動療法・リハビリテーションが重要であるが、両手杖レベルの HAM 患者と比較して、片手杖レベルの HAM 患者で運動療法・リハビリテーションを行っている割合が低く、その原因の 1 つに介護保険認定があることが判明した。今後、介護保険が受けられない 65 歳未満の HAM 患者に対して継続的に運動療法・リハビリテーションを実施していく支援体制が求められる。また、直近 1 年間の身体活動量の維持・増加は、HAM の運動障害の進行予防・改善に効果があることが示唆されたため、今後、ウェアラブル端末、その他 ICT 技術を活用し、運動障害の進行予防・改善に効果がある身体活動量の解明や自主トレーニングプログラム開発のための研究が必要である。

d) 患者 QOL 調査

本研究により、HAM 患者の HRQoL は一般集団よりも低く、SF-6D の低下は MID と同程度、EQ-5D-5L スコアは MID 以上に大きく低下していることが示された。多変量解析の結果より、下肢の運動・感覚障

害が HRQoL に大きく影響すると考えられたが、SF-36 の下位尺度には「身体機能」と「体の痛み」を含み他の HAM 関連症状を過小評価しうるため、HAM の全症状が HRQoL に大きな影響を与える可能性がある。また、下肢の持続する痛みや痺れは「日常的役割機能（身体）」の低下と関連しており、歩行障害だけでなく感覚障害も HAM 患者の日常生活を制限することが示唆された。OMDS は「心の健康」に影響しなかつたが、下肢の持続する痛みや痺れ、間欠導尿を必要とする排尿障害は「心の健康」、「全体的健康感」、「活力」の低下に有意に関連していた。以上より身体的・精神的により良い HRQoL を維持するためには、感覚障害や排尿障害も含めて症状を包括的にコントロールする必要があると考えられた。

3. HU レジストリの構築と疫学解析

我々は HU が性行為等の水平感染によって感染した HTLV-1 感染者では重度であることを報告した (*Lancet Inf Dis*, 2021)。また HU はバセドウ病との合併が多く、バセドウ病の発症あるいはその治療薬が重度の HU を誘発する可能性があるという知見を臨床的に重大な問題として報告した (*Lancet* 2022)。しかし、これらの知見はいずれも症例報告である。したがって、他の類縁疾患同様、HU レジストリを構築しその疫学解析を実施するによって、上記症例報告で示唆された知見を大規模調査で明らかにすることは非常に意義深いと考えられる。これまでに我々は HTLV-1 感染者レジストリ (JSPFAD) (研究代表者：山野嘉久) を運営し、すでに安定的なデータ収集体制を構築していることから、これを活用して JSPFAD 内に HU レジストリを構築することとし、現在、効率のよりデータ収集を進めることができており、今後の解析が期待される。

E. 結論

エビデンスに基づく医療において診療ガイドラインは重要な位置を占めるが、よりよい医療を実現するには一旦完成したら10年、20年同じという訳にはいかず、常に新しいエビデンスを取り込んで反映していく必要がある。そこで本研究班は、日本のHAMの診断・治療レベル全体が向上するように、AMEDエビデンス創出班から出された新たな知見を取り込んで、診療ガイドラインの改訂を行い、「HAM診療ガイドライン2025改訂版」を作成した。今後は本診療ガイドライン改訂版の普及を進め、診療現場への導入を促進する必要がある。

一方で、以前我々が作成したHAM診療ガイドライン2019の内容に関する診療現場への導入は、毎年度、新HAMねつとの参加施設や検査依頼が順調に増え、本ガイドラインの普及を実感している。先行研究のQuality Index調査から、診療経験が乏しく検査結果の解釈に説明を要する医師も多いという問題点が明らかになったが、本研究班で、主治医に対する相談支援を行う体制を整備し、現在その活動を継続している。また患者に対しても相談体制を構築したため、本研究により、主治医と患者の両面から支援体制基盤の強化を行うことで全国の患者のQOL向上につながることが期待される。加えて、この強化した支援体制整備は、今後改訂されたガイドラインを迅速に普及させるための基盤となることも期待できる。

また、HU発症におけるバセドウ病発症とその治療薬との因果関係については、HUレジストリの構築による疫学的解析が喫緊の課題であるが、HTLV-1感染者レジストリ(JSPFAD)(研究代表者:山野嘉久)内にHUレジストリを構築し、そのデータ収集を継続的に進めることができた。

以上のように、本研究の内容はすべてが

有機的につながることで、全国の診療体制強化と患者のQOL向上に寄与し、HTLV-1総合対策を大きく前進させることが期待される。

F. 健康危惧情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Ko R, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanabe K, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Nakashima M, Horibe E, Shimizu T, Sato T, Yamano Y. Performance evaluation of CXCL10 ELISA "cosmic" kit to measure CXCL10 in cerebrospinal fluid of patients with HTLV-1-associated myelopathy. Clin Exp Neuroimmunol, 2024 in press. doi: 10.1111/cen.12822.

Fuji S, Tokunaga M, Utsunomiya A, Makiyama J, Suehiro Y, Koh KR, Nakashima M, Yamano Y, Uchimaru K. Improving outcome prediction in indolent ATL by subdividing intermediate risk into low- and high-intermediate groups. Ann Hematol. Epub ahead of print, 2025. doi: 10.1007/s00277-025-06319-9.

Sugata K, Takatori M, Reda O, Tan BZY, Tokunaga M, Sato T, Ueda M, Yamano Y, Utsunomiya A, Satou Y. Effect of viral antigen mismatch affects antiviral T-cell response and may impair immunotherapeutic efficacy against adult T-cell leukemia/lymphoma. J Infect Dis, 231(3):816-821, 2025. doi: 10.1093/infdis/jiae457.

Asigbee TW, Nakamura-Hoshi M, Kuse N, Ishii H, Ishikawa K, Kawana-Tachikawa A, Horibe E, Nakashima M, Yamano Y, Uchimaru K, Matano T. Virus-host immune interaction in HTLV-1 carriers. Microbiol Spectr, 13(3):e0250724, 2025.

doi: 10.1128/spectrum.02507-24.

Jimbo K, Nojima M, Toriuchi K, Yamagishi M, Nakashima M, Yamano Y, Uchimaru K, Nannya Y. Long-term kinetics of proviral load in HTLV-1 carriers: defining risk for the development of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Biomark Res.* 13(1):34, 2025. doi: 10.1186/s40364-025-00747-5.

Da Silva SJ, Cabral-Castro MJ, Faria LC, Rosadas C, de Araújo MFL, Dutra ACS, Yamano Y, Taylor G, Puccioni-Sohler M. CXCL-10 in Cerebrospinal Fluid Detects Neuroinflammation in HTLV-1-Associated Myelopathy with High Accuracy. *Viruses*. 17(1):89, 2025. doi: 10.3390/v17010089.

Sato T, Yagishita N, Araya N, Nakashima M, Horibe E, Takahashi K, Kunitomo Y, Nawa Y, Hamaguchi I, Yamano Y. Diagnostic Value of Anti-HTLV-1-Antibody Quantification in Cerebrospinal Fluid for HTLV-1-Associated Myelopathy. *Viruses*, 16(10):1581, 2024.
doi.org/10.3390/v16101581.

Sagara Y, Nakamura H, Shitsuta E, Sagara Y, Uchimaru K, Yamano Y, Watanabe T, Miura K, Matsuzaki K. Plasma vitamin D levels correlated the pathogenesis of human T-cell leukemia virus type 1-associated diseases. *J Med Virol*, 96(9):e29898, 2024. doi: 10.1002/jmv.29898.

Sato T, Nagai M, Watanabe O, Misu T, Takenouchi N, Ohkubo R, Ishihara S, Tsuboi Y, Katsuno M, Nakagawa M, Matsushita T, Aso Y, Matsuura E, Tokashiki T, Mukaino A, Adachi H, Nakanishi K, Yamaguchi Y, Yamaguchi S, Yamano Y. Multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase 3 study of mogamulizumab with open-label extension study in a minimum number of

patients with human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy. *J Neurol*. 271(6):3471-3485, 2024. doi: 10.1007/s00415-024-12239-x.

Imoto K, Yamamoto H, Ohkawa C, Shimada N, Ikuzawa R, Takeda H, Ohhara T, Kojima Y, Furuya N, Motoyoshi A, Migita O, Kuga A, Keira T, Wakamatsu H, Sato T, Oike N, Koike J, Yamano Y, Sunakawa Y. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. *Int J Clin Oncol*. 29(5):571-581, 2024. doi: 10.1007/s10147-024-02483-6.

Shoji H, Yamano Y. The history of the Japanese Society for Neuro-infectious Diseases: Foundation, objectives, and legacy. *Intractable Rare Dis Res*. 13(2):129-132, 2024. doi: 10.5582/irdr.2024.01008.

Nonaka T, Ae R, Kosami K, Tange H, Kaneko M, Nakagaki T, Hamaguchi T, Sanjo N, Nakamura Y, Kitamoto T, Kuroiwa Y, Kasuga K, Doyu M, Tanaka F, Abe K, Murayama S, Yabe I, Mochizuki H, Matsushita T, Murai H, Aoki M, Fujita K, Harada M, Takao M, Tsukamoto T, Iwasaki Y, Yamada M, Mizusawa H, Satoh K, Nishida N. A Retrospective Cohort Study of a Newly Proposed Criteria for Sporadic Creutzfeldt-Jakob Disease. *Diagnostics (Basel)*. 14(21):2424, 2024. doi: 10.3390/diagnostics14212424.

Tanaka M, Takenouchi N, Arishima S, Matsuzaki T, Nozuma S, Matsuura E, Takashima H, Kubota R. HLA-A*24 increases the risk of HTLV-1-associated myelopathy despite reducing HTLV-1 proviral load. *Int J Mol Sci*. 25(13):6858, 2024.

Hiyoshi M, Eltalkhawy YM, Abdelnaser RA, Ono A, Monde K, Maeda Y, Mahmoud RM, Takahashi N, Hatayama Y, Ryo A,

- Nozuma S, Takashima H, Kubota R, Suzu S. M-Sec promotes the accumulation of intracellular HTLV-1 Gag puncta and the incorporation of Env into viral particles. *PLOS Pathogens.* 21(1):e1012919, 2025.
- Nozuma S, Matsuzaki M, Tanaka M, Kodama D, Dozono M, Yoshida T, Takashima H, Kubota R. T-cell receptor/CD3 downregulation and impaired signaling in HTLV-1-infected CD4+ T cells of HAM patients. *Int J Mol Sci.* 26(4):1706, 2025.
- Hobara T, Higuchi Y, Yoshida M, Suehara M, Ando M, Yuan JH, Yoshimura A, Kojima F, Matsuura E, Okamoto Y, Mitsui J, Tsuji S, Takashima H. Genetic and pathophysiological insights from autopsied patient with primary familial brain calcification: novel MYORG variants and astrocytic implications. *Acta Neuropathol Commun.* 12(1):136, 2024. doi: 10.1186/s40478-024-01847-3.
- Hobara T, Ando M, Higuchi Y, Yuan JH, Yoshimura A, Kojima F, Noguchi Y, Takei J, Hiramatsu Y, Nozuma S, Nakamura T, Adachi T, Toyooka K, Yamashita T, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Matsuura E, Okamoto Y, Takashima H. Linking LRP12 CGG repeat expansion to inherited peripheral neuropathy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 96(2):140-149, 2025. doi: 10.1136/jnnp-2024-333403.
- Matsui N, Tanaka K, Kokubun N, Hatanaka Y, Ishida M, Osaki Y, Watanabe T, Watanabe O, Matsuura E, Takashima H, Sato Y, Kuwabara S, Izumi Y, Japanese Isaacs study group. Prevalence, clinical profiles, and prognosis of Isaacs syndrome: A nationwide survey study in Japan. *J Neurol Sci.* 472:123442, 2025. doi: 10.1016/j.jns.2025.123442.
- Sakiyama Y, Yuan JH, Yoshimura A, Takeuchi M, Maki Y, Mori T, Takei J, Ando M, Hiramatsu Y, Nozuma S, Higuchi Y, Yonezawa H, Kirishima M, Suzuki M, Kano T, Tarisawa M, Hashiguchi S, Kunii M, Sato S, Takahashi-Iwata I, Hashiguchi A, Matsuura E, Izumo S, Tanimoto A, Takashima H. Brain biopsy and metagenomic sequencing enhance aetiological diagnosis of encephalitis. *Brain Commun.* 7(3):fcacf165, 2025. doi: 10.1093/braincomms/fcaf165. eCollection 2025.
- Yano C, Matsuura E, Nakamura T, Sonoda A, Shigehisa A, Ando M, Nozuma S, Higuchi Y, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Michizono K, Takashima H. Visual evoked potential in myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease. *Mult Scler Relat Disord.* 98:106408, 2025. doi: 10.1016/j.msard.2025.106408.
- Matsuo T, Kakita S, Honda H, Mori S, Araki K, Mitsunari K, Ohba K, Mochizuki Y, Imamura R. Relationship Between Tooth Loss Due to Chronic Periodontitis and Lower Urinary Tract Symptoms. *Medicina (Kaunas).* 60(11):1829, 2024. doi: 10.3390/medicina60111829.
- Niimi A, Akiyama Y, Tomonori Y, Furuta A, Matsuo T, Tomoe H, Kakizaki H, Matsukawa Y, Ogawa T, Mitsui T, Masumori N, Inamura S, Enomoto Y, Nomiya A, Maeda D, Igawa Y, Kume H, Homma Y. Clinical manifestations of interstitial cystitis and bladder pain syndrome: Analysis of a patient registry in Japan. *Int J Urol.* 32(1):103-109, 2025. doi: 10.1111/iju.15603.
- Mori S, Matsuo T, Honda H, Araki K, Mitsunari K, Ohba K, Imamura R. Relationship Between Overactive Bladder and Bone Fracture Risk in Female Patients. *In Vivo.* 38(4):2031-2040, 2024.

doi: 10.21873/invivo.13661.

Matsuo T, Mori S, Honda H, et al.

Effectiveness of Japanese traditional medicine yokukansan for nocturia due to sleep disorders. Traditional & Kampo Medicine. 11(2):139-146, 2024.

Zhang J, Kamoi K*, Zong Y, Yang M, Zou Y, Ohno-Matsui K. Evaluating tocilizumab safety and immunomodulatory effects under ocular HTLV-1 infection in vitro. Int Immunopharmacol. 137:112460, 2024. doi: 10.1016/j.intimp.2024.112460. Epub 2024 Jun 21. PMID: 38908082.

Yang M, Kamoi K*, Zong Y, Zhang J, Zou Y, Ohno-Matsui K. Ripasudil as a Potential Therapeutic Agent in Treating Secondary Glaucoma in HTLV-1-Uveitis: An In Vitro Analysis. Int J Mol Sci. 25(6):3229, 2024.

Zong Y, Kamoi K*, Miyagaki M, Zhang J, Yang M, Zou Y, Ohno-Matsui K. Applications of Biological Therapy for Latent Infections: Benefits and Risks. Int J Mol Sci. 25(17):9184, 2024.

Nakajima T, Saito T, Hashiguchi A, Nakabayashi T, Kodera K, Utsumi K, Kanayama T, Urabe H, Kinoshita S. Enhancing the effects of nusinersen with cybernic treatment using Hybrid Assistive Limb (HAL) in spinal muscular atrophy: a real-world case series and exploratory cohort analysis. Orphanet J Rare Dis. 20(1):194, 2025. doi: 10.1186/s13023-025-03681-9.

Hirayama T, Morioka H, Sugisawa T, Shibukawa M, Ebina J, Hanashiro S, Nagasawa J, Yanagihashi M, Okuni I, Nakajima T, Murakami Y, Yamanaka K, Ebihara S, Kano O. A preliminary study on the effects of long-term robot suit exercise training on gait function and quality of life in patients with spinal and bulbar

muscular atrophy. J Clin Neurosci.

128:110778, 2024. doi: 10.1016/j.jocn.2024.110778.

Tokuyasu D, Suzuki S, Uzawa A, Nagane Y, Masuda M, Konno S, Kubota T, Samukawa M, Sugimoto T, Ishizuchi K, Oyama M, Yasuda M, Akamine H, Onishi Y, Suzuki Y, Kawaguchi N, Minami N, Kimura T, Takahashi MP, Murai H, Utsugisawa K. Real-world experience with eculizumab and switching to ravulizumab for generalized myasthenia gravis. Ann Clin Transl Neurol. 11(5):1338-1346, 2024.

Sugimoto T, Suzuki S, Uzawa A, Yamawaki T, Masuda M, Minami N, Kawaguchi N, Kubota T, Takahashi MP, Suzuki Y, Watanabe G, Konno S, Kimura T, Samukawa M, Ishizuchi K, Akamine H, Onishi Y, Yasuda M, Nagane Y, Maruyama H, Murai H, Utsugisawa K. Worsening of myasthenic symptoms associated with statins. J Neurol Sci. 464: 123154, 2024.

Nonaka T, Ae R, Kosami K, Tange H, Kaneko M, Nakagaki T, Hamaguchi T, Sanjo N, Nakamura Y, Kitamoto T, Kuroiwa Y, Kasuga K, Doyu M, Tanaka F, Abe K, Murayama S, Yabe I, Mochizuki H, Matsushita T, Murai H, Aoki M, Fujita K, Harada M, Takao M, Tsukamoto T, Iwasaki Y, Yamada M, Mizusawa H, Satoh K, Nishida N. A Retrospective Cohort Study of a Newly Proposed Criteria for Sporadic Creutzfeldt-Jakob Disease. Diagnostics (Basel). 14(21): 2424, 2024.

Watanabe G, Takai Y, Nagane Y, Kubota T, Yasuda M, Akamine H, Onishi Y, Uzawa A, Kawaguchi N, Masuda M, Konno S, Amino I, Minami N, Kimura T, Samukawa M, Sugimoto T, Suzuki Y, Takahashi MP, Suzuki S, Murai H, Aoki M, Utsugisawa K. Cutoffs on severity metrics for minimal manifestations or better status in patients

with generalized myasthenia gravis. *Front Immunol.* 15: 1502721, 2024.

Habib AA, Zhao C, Aban I, França MC, Jr., José JG, Zu Hörste GM, Klimiec-Moskal E, Pulley MT, Tavolini D, Krumova P, Lennon-Chrimes S, Smith J, Thanei GA, Blondeau K, Vodopivec I, Wolfe GI, Murai H. Safety and efficacy of satralizumab in patients with generalised myasthenia gravis (LUMINESCE): a randomised, double-blind, multicentre, placebo-controlled phase 3 trial. *Lancet Neurol.* 24(2): 117-127, 2025.

Mizuike J, Suzuki K, Tosaka S, Kuze Y, Kobayashi S, Nakashima M, Jimbo K, Nannya Y, Suzuki Y, Uchimaru K, Yamagishi M. Rewired chromatin structure and epigenetic gene dysregulation during HTLV-1 infection to leukemogenesis. *Cancer Sci.* Online ahead of print, 2024. doi: 10.1111/cas.16388.

Kamoi K, Uchimaru K, Nannya Y, Tojo A, Watanabe T, Ohno-Matsui K. Sexual transmission of HTLV-1 resulting in uveitis with short-term latency and low proviral load. *J Med Virol.* 96(10):e70000, 2024. doi: 10.1002/jmv.70000.

Jimbo K, Kawamata T, Inamoto Y, Ito A, Yokoyama K, Sato A, Fukuda T, Uchimaru K, Nannya Y. Flow cytometric profiles with CD7 and CADM1 in CD4+ T cells are promising indicator for prognosis of aggressive ATL. *Blood Adv.* Online ahead of print. 2024. doi: 10.1182/bloodadvances.2024013089.

Tamaki K, Ouma S, Takahashi N, Fujioka S, Tsuboi Y. Association between Brain White Matter Lesions and Disease Activity in HAM/TSP Patients. *Neurol Int.* 16(1):202-209, 2024. doi: 10.3390/neurolint16010013.

Miyaue N, Yamanishi Y, Ito Y, Ando R, Nagai M. CSF Neopterin Levels Are Elevated in Various Neurological Diseases and Aging. *Clin Med.* 13(15):4542, 2024. doi: 10.3390/jcm13154542

Tanaka A, Ishitsuka Y, Ohta H, Takenouchi N, Nakagawa M, Koh KR, Onishi C, Tanaka H, Fujimoto A, Yasunaga JI, Matsuoka M. Integrative analysis of ATAC-seq and RNA-seq for cells infected by human T-cell leukemia virus type 1. *PLoS Comput Biol.* 2;21(1):e1012690, 2025. doi: 10.1371/journal.pcbi.1012690.

中川由紀, 三重野牧子, 市丸直嗣, 西田隼人, 中村道郎, 堀田記世彦, 尾本和也, 田崎正行, 伊藤泰平, 奥見雅由, 荒木元朗, 祖父江理, 山田保俊, 島袋修一, 劍持敬, 湯沢賢治. 腎移植臨床登録集計報告(2024) 2023年実施症例の集計報告と追跡調査結果, 移植, 59(3):217-236, 2024年.

DOI :
https://doi.org/10.11386/jst.59.3_217

松尾朋博, 今村亮一. 男性下部尿路症状における生活指導, 行動療法について. 臨泌. 78(8):546-550, 2024.

松尾朋博, 今村亮一. 夜間頻尿に対する薬剤(ミニリンメルト以外). 泌外. 37(特別号):308-310, 2024.

鴨居 功樹*. HTLV-1 と眼疾患. *Skin Cancer.* 30 :125-128, 2024.

鴨居 功樹*. HTLV-1 感染症:眼科学からの新展開. *Bio Clinica.* 39; 858-859, 2024.

鴨居 功樹*. HTLV-1 感染による後眼部病変. あたらしい眼科. 41: 491-497, 2024.

鴨居 功樹*. HTLV-1 感染症の新しいパラダイム. *Bio clinica.* 39: 253-254, 2024.

中島孝. 生体信号反応式運動機能改善装置(サイバーダイン社製、HAL 医療用下肢タイプ)を使用した CMT 等神経筋難病へのニ

ユーロリハビリテーションの基礎から実際.
Peripheral Nerve 末梢神経. 52(12), 2024.

中島孝. 遺伝学を対人支援カウンセリングに活かすためのナラティブ理論. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 44:143-156,2024.

梅北邦彦. HTLV-1 感染症～現状と課題～.
シンポジウム 3 HTLV-1 と関連疾患.
Skin Cancer. 39(2), 2024.

梅北邦彦. HTLV-1 と関節リウマチ. 特集ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 : HTLV-1. 機器・試薬. 47(4), 2024.

ルーシー・ジョンストン, ルディ・ダロス
編, 大野裕 監訳, 坂戸美和子 監訳・訳, 中島孝
ほか 訳, ケースフォーミュレーション-6 つの
心理学派による事例の見立てと介入 金剛出
版 20241220, ISBN9784772420839

Takao N, Yagishita N, Araya N, Aratani S,
Yamauchi J, Takahashi K, Kunitomo Y,
Sato T, Nakamori M, Kawai Y, Omae Y,
Tokunaga K, Matsuda F, Mitsuhashi S,
Yamano Y*. A Large-Scale Whole-Genome
Analysis of HTLV-1-Associated
Myelopathy Identified Hereditary Spastic
Paraplegias. Neurol Genet. 2024
Feb;10(1):e200108.
doi.org/10.1212/NXG.0000000000200108
(*corresponding author)

Tachikawa K, Shimizu T, Imai T, Ko R,
Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Frith MC,
Yamano Y, Mitsuhashi S. Cost-Effective
Cas9-Mediated Targeted Sequencing of
Spinocerebellar Ataxia Repeat
Expansions. J Mol Diagn. 2024
Feb;26(2):85-95. doi:
10.1016/j.jmoldx.2023.10.004.

Koseki A, Araya N, Yamagishi M,
Yamauchi J, Yagishita N, Takao N,
Takahashi K, Kunitomo Y, Honma D,
Araki K, Uchimaru K, Sato T, Yamano Y*.
EZH1/2 dual inhibitors suppress HTLV-1-

infected cell proliferation and
hyperimmune response in HTLV-1-
associated myelopathy. Front Microbiol,
2023 Jun;14:1175762. doi:
10.3389/fmicb.2023.1175762.
(*corresponding author)

Sato T, Yamauchi J, Yagishita N, Araya N,
Takao N, Ohta Y, Inoue E, Takahashi M,
Yamagishi M, Suzuki Y, Uchimaru K,
Matsumoto N, Hasegawa Y, Yamano Y.
Long-term safety and efficacy of
mogamulizumab (anti-CCR4) for treating
virus-associated myelopathy. Brain, 2023
Aug;146(8):3181-3191. doi:
10.1093/brain/awad139

Kuramitsu M, Momose H, Uchida Y,
Ishitsuka K, Kubota R, Tokunaga M,
Utsunomiya A, Hashikura Y, Umekita K,
Nosaka K, Koh KR, Nakamura H, Sagara
Y, Sobata R, Satake M, Nagata K,
Hasegawa Y, Sasaki D, Hasegawa H, Sato
T, Yamano Y, Hiraga K, Tezuka K, Ikebe
E, Matsuoka S, Okuma K, Watanabe T,
Miura K, Hamaguchi I. Performance
evaluation of ESPLINE HTLV-I/II, a
newly developed rapid
immunochemical antibody test,
for different diagnostic situations.
Microbiol Spectr, 2023

Dec;11(6):e0207823. doi:
10.1128/spectrum.02078-23.

鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司, 八木下尚
子, 堀部恵梨佳, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊
髄症 (HAM) 診療ガイドライン 2019 の
活用実態および内容の評価に関する全国ア
ンケート調査. 臨床神経学, 63(7):433-440.
2023 年 7 月

八木下尚子, 山野嘉久. Human T-cell
leukemia virus type I 関連脊髄症患者レジ
ストリ 「HAM ねっと」. 神経治療学,
40(1):28-31. 2023 年 4 月

山野嘉久. HAM 患者レジストリ 「HAM ね

っと」を用いたデータベース研究. 保険医療科学, 72(4):317-326. 2023年10月

Kubota T, Shijo T, Ikeda K, Mitobe Y, Umezawa S, Misu T, Hasegawa T, Aoki M. Distal Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy Following COVID-19 Vaccination in a Patient with Solitary Plasmacytoma: A Case Report and Literature Review. Intern Med. 62(16):2419-2425, 2023.

Matsumoto Y, Tarasawa K, Misu T, Namatame C, Takai Y, Kuroda H, Fujihara K, Fushimi K, Fujimori K, Aoki M. Dynamic changes in patient admission and their disabilities in multiple sclerosis and neuromyelitis optica: A Japanese nationwide administrative data study. Mult Scler Relat Disord, 81:105349, 2024 Jan.

Horai Y, Shimizu T, Umeda M, Nishihata SY, Nakamura H, Kawakami A. Current Views on Pathophysiology and Potential Therapeutic Targets in Sjögren's Syndrome: A Review from the Perspective of Viral Infections, Toll-like Receptors, and Long-Noncoding RNAs. J Clin Med. 2023; 12(18):5873. doi: 10.3390/jcm12185873.

Nishihata S, Shimizu T, Umeda M, Furukawa K, Ohyama K, Kawakami A., Nakamura H. The Toll-like receptor7-mediated Ro52 antigen-presenting pathway in the salivary gland epithelial cells of Sjögren's syndrome. J Clin Med. 2023 Jun 30;12(13):4423. doi: 10.3390/jcm12134423.

中川由紀, 三重野牧子, 市丸直嗣, 西田隼人, 中村道郎, 堀田記世彦, 尾本和也, 田崎正行, 伊藤泰平、奥見雅由, 荒木元朗, 祖父江理, 山田保俊, 島袋修一, 劍持敬, 湯沢賢治. 腎移植臨床登録集計報告(2023) 2022年実施症例の集計報告と追跡調査結果. 移植, 58(3), 189-208, 2023. DOI: https://doi.org/10.11386/jst.58.3_189

Nozuma S, Matsuura E, Tanaka M, Kodama D, Matsuzaki T, Yoshimura A, Sakiyama Y, Nakahata S, Morishita K, Enose-Akahata Y, Jacobson S, Kubota R, Takashima H. Identification and tracking of HTLV-1-infected T cell clones in virus-associated neurologic disease. JCI Insight. 8(7): e167422. 2023.

Matsuura E, Nozuma S, Dozono M, Kodama D, Tanaka M, Kubota R, Takashima H. Iliopsoas muscle weakness as a key diagnostic marker in HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). Pathogens. 12(4), 592; 2023.

Nozuma S, Yoshimura A, Pai S-C, Chen H-J, Matsuura E, Tanaka M, Kodama D, Dozono M, Matsuzaki T, Takashima H, Yang Y-C, Kubota R. Geographic characteristics of HTLV-1 molecular subgroups and genetic substitutions in East Asia: Insights from complete genome sequencing of HTLV-1 strains isolated in Taiwan and Japan. PLoS Neglect Trop Dis. 18(2): e0011928. 2024.

Matsuura E, Nozuma S, Shigehisa A, Dozono M, Nakamura T, Tanaka M, Kubota R, Hashiguchi A and Takashima H. HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesia with sporadic late-onset nemaline myopathy: a case report. BMC Musculoskeletal Disorders. 24:355, 2023. DOI: 10.1186/s12891-023-06461-3

Kojima F, Okamoto Y, Ando M, Higuchi Y, Hobara T, Yuan J, Yoshimura A, Hashiguchi A, Matsuura E, Takashima H. A novel homozygous HPDL variant in Japanese siblings with autosomal recessive hereditary spastic paraparesia: case report and literature review.

Neurogenetics. 2024 Jan 29. doi: 10.1007/s10048-024-00746-y. Online ahead of print.

松浦英治. HTLV-1 関連脊髄症の臨床. Neuroinfection, 28(1): 11-, 2023.

Matsuo T, Imamura R. Editorial Comments on The harmful effects of overlooking acute bacterial prostatitis. Int J Urol. 2024. doi: 10.1111/iju.15419. Online ahead of print.

Matsuo T, Imamura R. Editorial Comments on Transvaginal ultrasonography for trigonitis diagnosis in women. Int J Urol. 30(6):519-520,2023.

松尾朋博, 今村亮一. 夜間頻尿の病因・病態に基づいた治療戦略 多尿,夜間多尿に対する治療戦略. 臨床泌尿器科, 78(2):100-105,2024.

松尾朋博, 今村亮一. 男性下部尿路症状と酸化ストレスとの関連およびその治療について. Prostate Journal. 10(1):48-54,2023.

Kamoi K. Current challenges facing the clinical treatment for HTLV-1 ocular manifestations. Expert Review of Ophthalmology. 18:6, 405-419, 2023.

鴨居 功樹. HTLV-1 感染症の新しいパラダイム. BIO Clinica, 39:254-253, 2023.

鴨居 功樹. HTLV-1 による眼疾患. あたらしい眼科, 40: 29-36, 2023.

中島孝. 神経筋難病に対するロボットリハビリテーション : HAL 医療用下肢タイプによるサイバニクス治療. 関節外科, 42(5):36-44, 2023.5.

中島孝. 神経疾患および神経筋疾患に対する装着型サイボーグ HAL を使ったサイバニックニューロリハビリテーションの確立. 脳神経内科, 98(5): 651-659, 2023.5.

中島孝. 神経難病に対する装着型サイボーグを用いた運動機能の再生. Jpn Rehabiri Med, 60: 933-940, 2023.11.

Utsugisawa K, Deguchi K, Konno S, Masuda M, Minami N, Murai H, Suzuki S, Suzuki Y, Tsujino A, Uzawa A, Boroojerdi B, de la Borderie G, Brock M, Duda PW, Vanderkelen M, Howard JF. Efficacy and safety of zilucoplan in Japanese patients with generalized myasthenia gravis: A subgroup analysis of the phase III randomized RAISE study. Clin Exp Neuroimmunol, 15(1): 45-54, 2024.

Bril V, Howard JF, Karam C, De Bleecker JL, Murai H, Utsugisawa K, Ulrichs P, Brauer E, Zhao S, Mantegazza R, Vu T. Effect of efgartigimod on muscle group subdomains in participants with generalized myasthenia gravis: post hoc analyses of the phase 3 pivotal ADAPT study. Eur J Neurol 31(1): e16098, 2024.

Howard JF, Bril V, Vu T, Karam C, Peric SZ, De Bleecker JL, Murai H, Meisel A, Beydoun S, Pasnoor M, Guglietta A, Van Hoorick B, Steeland S, T'joen C, Utsugisawa K, Verschuur J, Mantegazza R. Long-term safety, tolerability, and efficacy of efgartigimod (ADAPT+): Interim results from a phase 3 open-label extension study in participants with generalized myasthenia gravis. Front Neurol 14: 1284444, 2024.

Suzuki S, Uzawa A, Nagane Y, Masuda M, Konno S, Kubota T, Samukawa M, Ishizuchi K, Tokuyasu D, Handa H, Yasuda M, Kawaguchi N, Kimura T, Suzuki Y, Sugimoto T, Minami N, Takahashi MP, Murai H, Utsugisawa K. Therapeutic responses to efgartigimod for generalized myasthenia gravis in Japan. Neurol Clin Pract 14(3): e200276, 2024.

Yamagishi M, Kuze Y, Kobayashi S,

Nakashima M, Morishima S, Kawamata T, Makiyama J, Suzuki K, Seki M, Abe K, Imamura K, Watanabe E, Tsuchiya K, Yasumatsu I, Takayama G, Hizukuri Y, Ito K, Taira Y, Nannya Y, Tojo A, Watanabe T, Tsutsumi S, Suzuki Y, Uchimaru K. Mechanisms of action and resistance in histone methylation-targeted therapy. *Nature*. 2024 Mar;627(8002):221-228. doi: 10.1038/s41586-024-07103-x.

Uchimaru K., Itabashi K. Measures for the Prevention of Mother-to-Child Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 Transmission in Japan: The Burdens of HTLV-1-Infected Mothers. *Viruses*. 2023 Sep 26;15(10):2002. doi: 10.3390/v15102002.

Itabashi K, Miyazawa T, Uchimaru K. How Can We Prevent Mother-to-Child Transmission of HTLV-1? *Int J Mol Sci*. 2023 Apr 9;24(8):6961. doi: 10.3390/ijms24086961.

Nishikawa Y, Choudhury ME, Mikami K, Matsuura T, Kubo M, Nagai M, Yamagishi S, Doi T, Hisai M, Yamamoto H, Yajima C, Nishihara T, Abe N, Yano H, Yorozuya T, Tanaka J. Anti-inflammatory effects of dopamine on microglia and a D1 receptor agonist ameliorates neuroinflammation of the brain in a rat delirium model. *Neurochem Int*, 163: 105479, 2023.

Miyaue N, Kaneko K, Takahashi T, Nagai M. A case of MOG antibody-associated disease with selective positivity in cerebrospinal fluid using IgG-Fc cell-based assay. *Acta Neurol Belg*, 124(2): 683-685, 2024.

鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1-associated myopathy(HAM). 神経疾患 診察指針 2023-24, 202-209, 総合医学社, 2023 年 5 月

鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山野嘉久. HAM の患者レジストリを介した診療連携構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均一化. *ANNUAL Review 神経* 2023, 81-86, 中外医学社, 2023 年 6 月

Nozuma S, Matsuura E, Tashiro Y, Nagata R, Ando M, Hiramatsu Y, Higuchi Y, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Michizono K, Higashi K, Matsuzaki T, Kodama D, Tanaka M, Yamano Y, Moritoyo T, Kubota R, Takashima H. Efficacy of l-Arginine Treatment in Patients with HTLV-1-Associated Neurological Disease. *Ann Clin Transl Neurol*, 10(2):237-245, 2023.

Tsuji Y, Koga T, Nonaka F, Nobusue K, Kawashiri SY, Yamanashi H, Maeda T, Arima K, Aoyagi K, Takahashi M, Kawaguchi S, Matsuda F, Fujii H, Kawano M, Nakamura H, Kawakami A, Tamai M. Identification of risk factors for elevated serum IgG4 levels in subjects in a large-scale health checkup cohort study. *Front Immunol*, 14:1124417, 2023.

Nakamura T. HAM/TSP pathogenesis: The transmigration activity of HTLV-1-infected T cells into tissues. *Pathogens*, 12: 492, 2023.

Nozuma S, Matsuura E, Tanaka M, Kodama D, Matsuzaki T, Yoshimura A, Sakiyama Y, Nakahata S, Morishita K, Enose-Akahata Y, Jacobson S, Kubota R, Takashima H. Identification and tracking of HTLV-1-infected T cell clones in virus-associated neurologic disease. *JCI Insight*, 8(7): e167422, 2023.

Dewilde S, Philips G, Paci S, Beauchamp J, Chirolis S, Quinn C, Day L, Larkin M, Palace J, Berrih-Aknin S, Claeys KG, Muppidi S, Mantegazza R, Saccà F, Meisel A, Bassez G, Murai H, Janssen M. Patient-reported burden of myasthenia gravis: baseline results of the

international prospective, observational, longitudinal real-world digital study
MyRealWorld-MG. BMJ open, e066445, 2023.

Narita T, Nakane S, Nagaishi A, Minami N, Niino M, Kawaguchi N, Murai H, Kira J, Shimizu J, Iwasa K, Yoshikawa H, Hatanaka Y, Sonoo M, Shimizu Y, Matsuo H. Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan. Ther Adv Neurol Disord. 16:17562864231163819, 2023. doi: 10.1177/17562864231163819.

Suzuki S, Masuda M, Uzawa A, Nagane Y, Konno S, Suzuki Y, Kubota T, Sugimoto T, Samukawa M, Watanabe G, Ishizuchi K, Akamine H, Onishi Y, Yoshizumi K, Uchi T, Amino I, Ueta Y, Minami N, Kawaguchi N, Kimura T, Takahashi M, Murai H, Utsugisawa K. Japan MG registry: Chronological surveys over 10 years. Clin Exp Neuroimmunol, 14(1):5-12, 2023.

Murai H, Utsugisawa K, Motomura M, Imai T, Uzawa A, Suzuki S. The Japanese clinical guidelines 2022 for myasthenia gravis and Lambert–Eaton myasthenic syndrome. Clin Exp Neuroimmunol, 14(1):19-27, 2023.

Nakashima M, Utsunomiya A, Watanabe T, Horie R, Uchimaru K. The oncogenic driving force of CD30 signaling-induced chromosomal instability in adult T-cell leukemia/lymphoma. Cancer Sci, 114(4):1556-1568, 2023.

Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ito S, Amano M, Ishida T, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Uchimaru K, Tsukasaki K. Validation of the iATL-PI prognostic index in therapeutic decision-making for patients with smoldering and chronic

ATL: a multicenter study. Int J Hematol, 117(2):206-215, 2023.

Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y. HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature. eNeurological Sci, 31:100453, 2023.

Takao N, Yamano Y. Forefront studies on human T-cell leukemia virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). Clin Exp Neuroimmunol, 13 : 34-41, 2022.

Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly ALG, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y*. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic virus type 1-associated myelopathy. Front. Med(Lausanne), 9:879379, 2022.

Wada Y, Sato T, Hasegawa H, Matsudaira T, Nao N, Coler-Reilly ALG, Tasaka T, Yamauchi S, Okagawa T, Momose H, Tanio M, Kuramitsu M, Sasaki D, Matsumoto N, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Tanabe K, Yamagishi M, Nakashima M, Nakahata S, Iha H, Ogata M, Imaizumi Y, Uchimaru K, Miyazak Y, Konnai S, Yanagihara K, Morishita K, Watanabe T, Yamano Y, Saito M. RAISING is a high-performance method for identifying random transgene integration sites. Commun Biol, 5(1):535, 2022.

Tanaka Y, Sato T, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Aratani S, Takahashi K, Kunitomo Y, Nagasaka M, Kanda Y, Uchimaru K, Morio T, Yamano Y*.

Potential Role of HTLV-1 Tax-Specific Cytotoxic T Lymphocytes expressing a Unique T-cell Receptor to Promote Inflammation of the Central Nervous System in Myelopathy Associated with HTLV-1. *Front. Immunol.*, 13:993025, 2022.

Puccioni-Sohler M, Poton AD, Cabral-Castro MJ, Yamano Y, Taylor G, Casseb J. Human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy: overview of Human T Cell Lymphotropic Virus-1/2 tests and potential biomarkers. *AIDS Res Hum Retroviruses*, 38(12):924-932, 2022.

Sasaki N, Sato T, Yamatoku M, Yamano Y. Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy. *Neuro Rehabilitation*, 51(3):519-526, 2022.

Kikuchi T, Takao N, Sato T, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Tachikawa K, Ko R, Shibata S, Kaburagi K, Iijima N, Mizukami H, Sakurai K, Yamauchi J, Kimura A, Shimohata T, Yamano Y*. Level of CSF CXCL10 is highly elevated and decreased after steroid therapy in patients with autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy. *Clin Exp Neuroimmunol*, 14(1):61-68, 2022.

Kamoi K, Watanabe T, Uchimaru K, Okayama A, Seiko K, Kawamata T, Kurozumi-Karube H, Horiguchi N, Zong Yuan, Yamano Y, Hamaguchi I, Nannya Y, Tojo A, and Ohno-Matsui K. Updates on HTLV-1 Uveitis. *Viruses*, 14(4), 794, 2022.

Uchida T, Takahashi Y, Yamashita H, Nakaoku Y, Ohura T, Okura T, Masuzawa Y, Hosaka M, Kobayashi H, Sengoku T, Nakayama T. Evaluation of Clinical Practice Guidelines for Rare Diseases in Japan. *JMA J.* 17;5(4): 460-470, 2022.

Okada Y, Izumi R, Hosaka T, Watanabe S, Shijo T, Hatchome N, Konishi R, Ichimura Y, Okiyama N, Suzuki N, Misu T, Aoki M. Anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis developed after COVID-19 manifesting as type I interferonopathy. *Rheumatology*, 61:e90-92, 2022.

Kubota T, Sugeno N, Sano H, Murakami K, Ikeda K, Misu T, Aoki M. The immediate onset of isolated and unilateral abducens nerve palsy associated with COVID-19 infection: a case report and literature review. *Intern Med*, 61:1761-1765, 2022.

Okada Y, Izumi R, Hosaka T, Watanabe S, Shijo T, Hatchome N, Konishi R, Ichimura Y, Okiyama N, Suzuki N, Misu T, Aoki M. Anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis developed after COVID-19 manifesting as type I interferonopathy. *Rheumatology*, 61:e90-92, 2022.

Kubota T, Sugeno N, Sano H, Murakami K, Ikeda K, Misu T, Aoki M. The immediate onset of isolated and unilateral abducens nerve palsy associated with COVID-19 infection: a case report and literature review. *Intern Med*, 61:1761-1765, 2022.

Iwamoto N, Araki T, Umetsu A, Takatani A, Aramaki T, Ichinose K, Terada K, Hirakata N, Ueki Y, Kawakami A, Eguchi K. The association of increase of human T-cell leukemia virus type-1 (HTLV-1) proviral load (PVL) with infection in HTLV-1-positive patients with rheumatoid arthritis: A longitudinal analysis of changes in HTLV-1 PVLs in a single center cohort study. *Front Immunol*, 13:887783, 2022.

Tashiro Y, Matsuura E, Sagara Y, Tanaka M, Nozuma S, Kodama D, Koriyama C, Kubota R, Takashima H. High prevalence

of HTLV-1 carriers among the elderly population in Kagoshima, a highly endemic area in Japan. AIDS Res Hum Retrov, 38(5):363-369, 2022.

Ito H, Matsuo T, Mitsunari K, Ohba K, Miyata Y. Impact of Mirabegron Administration on the Blood Pressure and Pulse Rate in Patients with Overactive Bladder. Medicina, 58:825, 2022.

Ito H, Matsuo T, Kurata H, Masato M, Mitsunari K, Ohba K, Miyata Y. Effects of β3 Agonists and Anticholinergic Drugs on Defecation in Patients With Overactive Bladder. In Vivo, 36:1847-1853, 2022.

Zong Y, Kamoi K, Ando N, Kurozumi-Karube H, Ohno-Matsui K. Mechanism of Secondary Glaucoma Development in HTLV-1 Uveitis. Front Microbiol, 13:738742, 2022.

Zong Y, Kamoi K, Kurozumi-Karube H, Zhang J, Yang M, Ohno-Matsui K. Ohno-Matsui K. Safety of intraocular anti-VEGF antibody treatment under in vitro HTLV-1 infection. Front Immunol, 13:1089286, 2022.

Nakatsuji H, Ikeda T, Hashizume A, Katsuno M, Sobue G, Nakajima T. The Combined Efficacy of a Two-Year Period of Cybernic Treatment With a Wearable Cyborg Hybrid-Assistive Limb and Leuprorelin Therapy in a Patient With Spinal and Bulbar Muscular Atrophy: A Case Report. Front Neurol, 13:905613, 2022.

Morioka H, Hirayama T, Sugisawa T, Murata K, Shibukawa M, Ebina J, Sawada M, Hanashiro S, Nagasawa J, Yanagihashi M, Uchi M, Kawabe K, Washizawa N, Ebihara S, Nakajima T, Kano O. Robot-assisted training using hybrid assistive limb ameliorates gait

ability in patients with amyotrophic lateral sclerosis. Journal of Clinical Neuroscience, 99:158-163, 2022.

Murai H, Suzuki S, Fukamizu Y, Osawa T, Kikui H, Utsugisawa K. Safety and effectiveness of eculizumab in Japanese patients with generalized myasthenia gravis: Analysis of 1-year postmarketing surveillance. Clin Exp Neuroimmunol, 13(4): 280-289, 2022.

Fuji S, Yasunaga JI, Watanabe E, Matsuoka M, Uchimaru K, Ishikawa J. Pseudo-progression of adult T-cell leukemia-lymphoma after cord blood transplantation. Haematologica, 107(11):2756-2759, 2022.

Miyaue N, Yoshida A, Yamanishi Y, Tada S, Ando R, Hosokawa Y, Yabe H, Nagai M. Refractory Longitudinally Extensive Transverse Myelitis after Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 Vaccination in a Japanese Man. Intern Med, 61:739-742, 2022.

Miyaue N, Hosokawa Y, Yamanishi Y, Tada S, Ando R, Nagai M. Clinical use of CSF neopterin levels in CNS demyelinating diseases. J Neurol Sci, 441:120385, 2022.

Umekita K. Effect of HTLV-1 Infection on the Clinical Course of Patients with Rheumatoid Arthritis. Viruses, 14(7):1460, 2022.

Komatsu T, Hada T, Sasaki N, Kida H, Takahashi J, Maku T, Nakada R, Shiraishi T, Akiyama S, Kitagawa T, Sato T, Takatsu H, Sakuta K, Sakai K, Umehara T, Omoto S, Murakami H, Mitsumura H, Abo M, Iguchi Y. Effects and safety of high-frequency rTMS in acute intracerebral hemorrhage patients: A pilot study. J Neurol Sci, 443:120473,

2022.

鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) . CLINICAL NEUROSCIENCE, 41(1):122-125. 2023.

山野嘉久. HTLV-1-associated myelopathy(HAM). 日本臨牀, 80(suppl5), 340-346. 2022.

鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) . CLINICAL NEUROSCIENCE, 40(6):798-800. 2022.

山野嘉久, 松田文彦. 難病プラットフォームの確立と展開. 臨床評価, 50(2):194-208. 2022.

山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) . CLINICAL NEUROSCIENCE, 40(11):1406-1408. 2022.

櫻井謙三, 山野嘉久. 神経感染症の治療の進歩 (2021) . 神經治療学, 39(5):760-763. 2022.

中川由紀, 三重野牧子, 市丸直嗣, 森田研, 中村道郎, 堀田記世彦, 尾本和也, 田崎正行, 伊藤泰平, 牛込秀隆, 荒木元朗, 祖父江理, 山田保俊, 島袋修一, 劍持敬, 湯沢賢治. 腎移植臨床登録集計報告 (2022) 2021 年実施症例の集計報告と追跡調査結果. 移植, 57(3): 199-219, 2022.

鴨居 功樹. HTLV-1 関連眼疾患の最前線. 別冊 Bio Clinica, 11:115-117, 2022.

鴨居 功樹. HTLV-1 感染症 : 眼科学分野からのパラダイムシフト. Bio Clinica, 37:68-69, 2022.

清水如代, 中島孝, 羽田康司, 山崎正志. リハビリテーション医学領域におけるロボットの臨床応用・装着型サイボーグ HAL による運動機能改善-. Current Therapy, 41(3):67-72, 2023.

中島孝. 医師主導治験を実施した立場から- HAL 医療用下肢タイプを例に-. 医療,

76(2):5, 2022.

佐々木信幸. 脳卒中片麻痺に対する反復性 経頭蓋磁気刺激 (rTMS) . MEDICAL REHABILITATION, 282:85-91, 2022.

佐々木信幸. 脳卒中に対する反復性経頭蓋 磁気刺激 (rTMS) . 老年医学, 60(11):997-1001, 2022.

〔著書〕

中山健夫. 診療ガイドラインに関する基本知識. 編: 門脇孝・小室一成・宮地良樹, 日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE, メディカルレビュー社, 18-23, 2022.

中島孝. 神経・筋難病(8疾患)の患者様とご家族の皆さまへ HAL という治療の選択肢があるのをご存知ですか?. CYBERDYNE 株式会社編, FOM-360 Vol.001, 24, CYBERDYNE 株式会社, つくば市, 2022.

2. 学会発表

〔国際学会〕

Sato T, Saito M, Yamano Y. ATL risk assessment using RAISING, a novel clonality analysis method for HTLV-1-infected cells. HTLV Conference 2024, 2-5 Jun 2024, London, UK.

Araya N, Yamagishi M, Nakashima M, Asahara N, Kiyoohara K, Aratani S, Yagishita N, Sato T, Uchimaru K, Yamano Y. Virus-induced RGMa is a key mediator of Neuronal Damage and Therapeutic Target in HAM. HTLV Conference 2024, 2-5 Jun 2024, London, UK.

Sugata K, Tan BZY, Takanori M, Hossain MB, Rajib SA, Reda O, Tokunaga M, Nomura T, Masuda T, Nakashima M, Sato T, Ueda M, Utsunomiya A, Yamano Y, Satou Y. Integrated single cell analysis of HTLV-1 specific CD8 T cells in peripheral blood and cerebrospinal fluid from HAM/TSP patients. HTLV Conference

2024, 2-5 Jun 2024, London, UK.

Nakashima M, Nagai K, Takao N, Araya N, Kuze Y, Suzuki Y, Uchimaru K, Yamagishi M, Yamano Y. Integrated multi-omics analyses to explore a novel inflammatory-inducing factor in HAM/TSP. HTLV Conference 2024, 2-5 Jun 2024, London, UK.

Rahman A, Sugata K, Niimura K, Monde K, Ueno T, Rajib SA, Sakhor W, Belal MH, Sithi SN, Jahan MI, Yamano Y, Tanaka Y, Tokunaga M, Utsunomiya A, Okuma K, Ono M, Satou Y. Intragenic silencer of HTLV-1 play a key role in retroviral latency by recruiting cellular transcription factors, RUNX1, GATA3 and ETS1. HTLV Conference 2024, 2-5 Jun 2024, London, UK.

Kubota R, Tanaka M, Kodama D, Dozono M, Nozuma S, Takashima H. Comparison of phenotypes and functions in HTLV-1 Tax-specific cytotoxic T-lymphocytes between HAM patients and carriers. 21th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, London, UK, 2024, June

Tanaka M, Arishima S, Kodama D, Nozuma S, Takashima H, Miwa M, Kubota R. Investigation of HAM pathogenesis due to PARP-mediated neuronal death. 21th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, London, UK, 2024, June

Nozuma S, Matsuura E, Dozono M, Yoshida T, Tanaka M, Kodama D, Kubota R, Takashima H. Characterizing pathological HTLV-1-infected T cell clones in HAM/TSP. 21th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, London, UK, 2024, June

Dozono M, Nozuma S, Matsuura E, Yoshida T, Tanaka M, Kodama D, Kubota R, Takashima H, Efficacy of l-arginine in patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. 21th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, London, UK, 2024, June

Matsuo T, Honda H, Mori S, et al. Urinary Na/K ratio as a predictive tool in diagnosing overactive bladder. International Continence Society 2024. 口頭. 現地, マドリード, 2024年10月25日.

Matsuo T, Mori S, Honda H, et al. Relationship between salt intake and overactive bladder. International Continence Society 2024. 口頭. 現地, マドリード, 2024年10月25日.

Murai H, Howard JF, Pasnoor M, Bril V, Karam C, Peric S, De Bleecker JL, Meisel A, Beydoun S, Vu T, Ulrichs P, Van Hoorick B, Guptill J, T'joen C, Utsugisawa K, Mantegazza R. Long-Term Safety and Efficacy of Efgartigimod in Generalized Myasthenia Gravis During the ADAPT+ Study. ICNMD 2024. 2024.10.25-29, Perth, Australia.

Matsuura E, Nozuma S, Dozono M, Yoshida Y, Kodama D, Tanaka M, Kubota R, Takashima H. Iliopsoas muscle weakness as a key diagnostic marker in HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). World Congress of Neurology 2023, 2023, October, Montreal.

Keiko Tamaki, Yoshio Tsuboi. Association between brain white matter lesions on MRI and disease activity in HAM/TSP. World Congress of Neurology 2023, 2023, October, Montreal.

Matsuo T, Araki K, Mitsunari K, Ohba K, Imamura R. Effect of Japanese traditional medicine in patients with nocturia due to sleep disturbance. International Continence Society 2023. 現地, トロント, 2023年9月.

Murai H. Japanese clinical guidelines for myasthenia gravis and Lambert-Eaton myasthenic syndrome. 45th Philippine Neurological Association Annual Convention, 2023.11.25, Manila.

Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Nakagawa M, Matsuura E, Tsuboi Y, Tamaki K, Sakima H, Ishihara S, Araujo A, Jacobson S, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Bland M, Taylor GP, Martin F, Yamano Y. A randomized controlled trial on corticosteroid therapy for HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis in Japan (HAMLET-P trial). 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV22), Melbourne, Australia, 2022/5/8-11,

Sato T, Yagishita N, Araya N, Yamauchi J, Takahashi K, Kunitomo Y, Hasegawa Y, Higashikuse Y, Miyachi K, Yamano Y. Evaluation of quantification method of HTLV-1 proviral load in white blood cells using whole blood. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV22), Melbourne, Australia, 2022/5/8-11,

Tsuge S, Fujii H, Tamai M, Mizushima I, Yoshida M, Suzuki N, Takahashi Y, Takeji A, Horita S, Fujisawa Y, Matsunaga T, Zoshima T, Nishioka R, Nuka H, Hara S, Tani Y, Suzuki Y, Ito K, Yamada K, Nagasaki S, Kawakami A, Kawano M. Factors Related to serum IgG4 elevation and development of IgG4-related disease: data from resident examination. EULAR

2022 European E - Congress of Rheumatology. Poster, Copenhagen(Web), 2022/6/1-4.

Tsuji Y, Tamai M, Koga T, Morimoto S, Kawashiri SY, Nonaka F, Yamanashi H, Arima K, Aoyagi K, Maeda T, Matsuda F, Kawakami A. Influence of environmental and genetic factors on serum IgG4 during health checkups in Nagasaki Island study. EULAR 2022 European E - Congress of Rheumatology. Poster, Copenhagen(Web), 2022/6/1-4.

Howard JF, Bril V, Vu T, Karam C, Peric S, De Bleecker JL, Murai H, Meisel A, Beydoun S, Pasnoor M, Guglietta A, Ulrichs P, T'joen C, Utsugisawa K, Verschueren J, Mantegazza R: Long-Term Safety, Tolerability, and Efficacy of Efgartigimod in Patients With Generalized Myasthenia Gravis: Interim Results of the ADAPT+ Study. 74th Annual Meeting of American Academy of Neurology, 2022.4.24-26, Web.

Meisel A, Bril V, Vu T, Karam C, Peric S, De Bleecker JL, Murai H, Beydoun S, Pasnoor M, Guglietta A, Ulrichs P, T'joen C, Utsugisawa K, Verschueren J, Mantegazza R, Howard JF: Long-Term Safety and Efficacy of Efgartigimod in Patients With Generalized Myasthenia Gravis: Interim Results of the ADAPT+ Study. 8th Congress of the European Academy of Neurology (EAN). 2022.6.25-28, Vienna, Austria.

Yamagishi M, Kuze Y, Nakashima M, Kobayashi S, Morishima S, Kawamata T, Makiyama J, Abe K, Imamura K, Watanabe E, Tsuchiya K, Yasumatsu I, Takayama G, Ito K, Nannya Y, Tojo A, Watanabe T, Tsutsumi S, Suzuki Y, Uchimaru K. Durable Clinical Impacts and Mechanisms of Action and Resistance

in EZH1/2-Targeting Epigenetic Therapy.
64th ASH Annual Meeting and
Exposition, New Orleans & Virtual,
2022/12/10-13.

Yamagishi M, Kuze Y, Yokomizo A,
Fukuda T, Watanabe T, Suzuki Y,
Uchimaru K. Chronological genome and
single-cell epigenome/transcriptome
integration characterizes the evolutionary
process of adult T cell leukemia-
lymphoma. 20th International Conference
on Human Retrovirology: HTLV and
Related Viruses: VIRTUAL, 2022/5/8-11.

Utsunomiya A, Nakano N, Tokunaga M,
Odawara J, Miyazono T, Fujino S, Ito, Y,
Yonekura K, Tashiro Y, Takatsuka Y,
Takeuchi S, Uchimaru K, Watanabe T.
Fluctuation of HTLV-1 provirus loads in
long survival patients with ATL
underwent allogeneic hematopoietic cell
transplantation. 20th International
Conference on Human Retrovirology:
HTLV and Related Viruses: VIRTUAL,
2022/5/8-11, Poster.

Nakano K, Tanaka M, Uchida K,
Watanabe T, Uchimaru K. Analysis in the
mechanism of co-operative and mutual
regulation among viral proteins in HTLV-
1 infection. 20th International Conference
on Human Retrovirology: HTLV and
Related Viruses: VIRTUAL, 2022/5/8-11,
Poster.

Mizuike J, Yamagishi M, Tosaka S,
Tanaka Y, Watanabe T, Suzuki Y,
Uchimaru K. Interactome and epigenetic
functions of HTLV-1 Tax. 20th
International Conference on Human
Retrovirology: HTLV and Related Viruses:
VIRTUAL, 2022/5/8-11, Poster.

〔国内学会〕

山野嘉久. HAM ならびに類縁疾患の患者レ

ジストリによる診療連携体制および相談機
能の強化と診療ガイドラインの改訂. HTLV-
1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2025
年 2 月 15 日 オンライン (Zoom) 配信

山野嘉久. レトロウイルスによる脊髄の慢性
炎症性疾患 : HTLV-1 関連脊髄症 (HAM)
の病態解明に基づく創薬への挑戦.

International Conference on Immunity
and Cognition: integration of
multidisciplinary approaches in
Neuroscience, Endocrinology, Metabolic
biology and Osteoimmunology
(IC2NEMO), 2025 年 1 月 29 日, 朝日屋旅
館, 長野.

佐藤知雄, 高梨世子, 高橋克典, 國友康夫,
田辺健一郎, 八木下尚子, 新谷奈津美, 中島
誠, 堀部恵梨佳, 清水高弘, 山野嘉久. HAM
患者髄液における CXCL10 ELISA キットの
性能評価. 厚生労働省難治性疾患政策研究
班・AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6
年度合同班会議, 2025 年 1 月 10 日, ステー
ションコンファレンス東京, 東京.

中島誠, 永井香帆, 鷹尾直誠, 新谷奈津美,
久世裕太, 佐藤知雄, 鈴木穣, 内丸薰, 山岸
誠, 山野嘉久. HAM におけるクロマチン構
造異常を介した炎症促進機序の解明と分子
標的治療法の開発. 厚生労働省難治性疾患政
策研究班・AMED 難治性疾患実用化研究班
令和 6 年度合同班会議, 2025 年 1 月 10 日,
ステーションコンファレンス東京, 東京.

鈴木佳子, 久世裕太, 儀武黎, 神保光児, 南
谷泰仁, 鈴木穣, 山野嘉久, 内丸薰, 山岸誠.
HTLV-1 感染者のゲノム異常の実態評価と
ATL 発症リスク因子の検討. 厚生労働省難
治性疾患政策研究班・AMED 難治性疾患実
用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025 年
1 月 10 日, ステーションコンファレンス東
京, 東京.

佐藤賢文, 菅田謙治, 新村光輝, ベンジー タ
ン ジェック ヤン, 中島誠, 佐藤知雄, 山野
嘉久. HAM 患者脳脊髄液のシングルセル解
析による HAM 病態解明研究. 厚生労働省難

治性疾患政策研究班・AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025 年 1 月 10 日, ステーションコンファレンス東京, 東京.

山野嘉久. HTLV-1 の病態と感染予防. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 10 日.

中島誠、荒谷聰子、菅田謙治、新谷奈津美、八木下尚子、佐藤知雄、佐藤賢文、山野嘉久. HAM 患者脳脊髄液細胞のシングルセルトランスクリプトームによる感染細胞特異的分子標的の探索. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 10 日.

新谷奈津美、山岸誠、中島誠、荒谷聰子、堀部恵梨佳、八木下尚子、内丸薫、佐藤知雄、山野嘉久. HAM 神経障害因子 RGMa の HTLV-1 による発現制御機構の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 10 日.

宮田潤、山梨啓友、野中文陽、有馬和彦、玉井慎美、嵩義則、林田直美、柳原克紀、吉浦孝一郎、北岡隆、青柳潔、川上純、山野嘉久、前田隆浩. HTLV-1 キャリアにおけるチアマゾール内服とぶどう膜炎との関連 : Nagasaki Islands Study. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 10 日.

中嶋伸介、竹之内徳博、日野正基、山野嘉久、山岸誠、上野孝治、大高時文、内丸薫、藤澤順一、大隅和. 末梢血の CD4⁺T 細胞に発現する TFR は HAM の疾患活動マーカーである. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 10 日.

山野嘉久. HAM の病態理解に基づく新たな治療薬の展望. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 9 日.

荒谷聰子、佐藤知雄、中島誠、新谷奈津美、八木下尚子、MartinFrith、三橋里美、山野嘉

久. ロングリードシークエンサーを用いた包括的 HTLV-1 プロウイルスゲノム解析法の構築. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 9 日.

菅田謙治、ラマン アキヌール、新村光輝、上野孝治、山野嘉久、田中勇悦、徳永雅仁、宇都宮與、大隈和、小野昌弘、佐藤賢文. HTLV-1 潜伏感染を規定するプロウイルス内サイレンサー領域の同定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 9 日.

菅田謙治、タン ジェックヤン、新村光輝、高鳥光徳、徳永雅仁、中島誠、佐藤知雄、植田光晴、宇都宮與、山野嘉久、佐藤賢文. HAM 患者脳脊髄液での特異的 CD8T 細胞の遺伝子発現と TCR avidity の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 9 日.

神保光児、野島正寛、鳥内恵子、山岸誠、山野嘉久、内丸薫、南谷泰仁. HTLV-1 キャリアの長期プロウイルス量動態モデルを用いた ATL 発症危険度の推定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 9 日.

相良康子、中村仁美、志津田恵津子、相良康弘、内丸薫、山野嘉久、渡邊俊樹、三浦清徳、松崎浩史. 血中ビタミン D レベルと HTLV-1 関連疾患発症の関係. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 8 日.

堀部恵梨佳、相良康子、佐藤知雄、八木下尚子、内丸薫、渡邊俊樹、山野嘉久. JSPFAD レジストリにおける症例・検体登録数の現状. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2024 年 11 月 8 日.

山野嘉久. 希少難病のドラッグラグ・ドラッグロスの解決に資する基盤を目指して～難病プラットフォームについて～. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024 年 11 月 8 日、幕張メッセ、千葉. <シンポジウム>

山野嘉久. HTLV-1 の病態と感染予防. 第 28 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024 年 10 月 12 日, 一橋講堂, 東京.

山野嘉久. HAM 診療におけるバイオマーカーの最新トピックス. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024 年 10 月 4 日, 富山国際会議場, 富山.

蛭田興明, 八木下尚子, 佐藤知雄, 鷹尾直誠, 白石眞, 秋山久尚, 秋場正博, 山野嘉久. 眼底 OCT データを活用した機械学習モデルによる HAM の診断補助への可能性. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024 年 10 月 4 日, 富山国際会議場, 富山.

鈴木真紀、小野紘彦、菅野直人、三須建郎、青木正志. 全身性エリテマトーデス (SLE) の経過中に発症した進行性多層性白質脳症 (PML) の一例. 日本神経感染症学会. 2024 年 10 月 11 日, 東京.

金子仁彦、三須建郎、大友瑞貴、松本勇貴、生田目知尋、高井良樹、青木正志. 当院における抗神経抗体陽性自己免疫性脳炎 19 例の検討. 日本神経免疫学会. 2024 年 10 月 3 日～5 日, 富山.

玉井慎美, 辻 良香, 野中文陽, 川尻真也, 有馬和彦, 青柳 潔, 前田隆浩, 川上 純. 地域における関節リウマチの発症追跡研究 : Nagasaki Island Study. 第 35 回日本疫学会学術総会. 2025 年 2 月 12 日～14 日, 高知.

宮田 潤, 山梨 啓友, 野中 文陽, 有馬 和彦, 玉井 慎美, 柳原 克紀, 吉浦 孝一郎, 青柳 潔, 川上 純, 山野 嘉久, 前田 隆浩. HTLV-1 感染と薬物療法を要する甲状腺疾患との関連の検討 : Nagasaki Islands Study. 日本臨床疫学会 第 7 回年次学術大会. 2024 年 11 月 3 日, 東京.

辻 良香, 玉井慎美, 野中文陽, 川尻真也, 山梨啓友, 有馬和彦, 青柳 潔, 前田隆弘, 川上 純. Nagasaki Islands cohort の健常者における抗 SS-A/Ro 抗体陽性と抗 CCP

抗体の関連. 第 32 回日本シェーグレン症候群学会学術集会. 2024 年 9 月 27 日, 淡路市.

玉井慎美, 野中文陽, 辻 良香, 川尻真也, 古藤世梨奈, 有馬和彦, 青柳 潔, 川上 純. 健常人における高リスク群からの関節リウマチ発症予測 :Nagasaki Island Study. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2024 年 4 月 18 日～20 日, 神戸市.

辻 良香, 玉井慎美, 野中文陽, 川尻真也, 川上 純. Nagasaki Islands cohort の健常者における抗 SS-A 抗体陽性と喫煙の関連. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2024 年 4 月 18 日～20 日, 神戸市.

久保田龍二. HAM の臨床と病態. 第 40 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 2024 年 5 月 11 日, 宮崎.

野妻智嗣、堂園美香、吉田崇志、田中正和、児玉大介、松崎敏男、松浦英治、道園久美子、久保田龍二、高嶋博. HAM におけるウイルス特異的 CTL の動態と神経障害への関与. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会 2024 年 10 月, 富山.

堂園美香, 野妻智嗣, 吉田崇志, 松浦英治, 児玉大介, 田中正和, 久保田龍二, 高嶋博. Parkinsonism を合併した HTLV-1 関連脊髄症の臨床像. 第 28 回日本神経感染症学会学術大会, 2024 年 10 月, 東京.

Kodama D, Tanaka M, Matsuzaki T, Nozuma T, Matuura E, Takashima H, Izumo S, Kubota R. Development of molecular-targeted drug for HTLV-1-associated myelopathy. 第 65 回日本神経学会学術大会 2024 年 5 月, 東京.

吉田崇志, 松浦英治, 野妻智嗣, 堂園美香, 児玉大介, 田中正和, 久保田龍二, 高嶋博. HTLV-1 脊髄症 (HAM) における筋力低下の分布 : 診断マーカーとしての腸腰筋について. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024 年 5 月, 東京.

堂園美香, 野妻智嗣, 平方翔太, 吉田崇志,

松浦英治, 久保田龍二, 高嶋博.

Parkinsonism を合併した HTLV-1 関連脊髄症の検討。第 65 回日本神経学会学術大会, 2024 年 5 月, 東京。

野妻智嗣, 堂園美香, 吉田崇志, 田中正和, 児玉大介, 松崎敏男, 松浦英治, 高嶋博, 久保田龍二. HAM における HTLV-1 特異的 CTL の動態と神経障害への関与。第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京。

堂園美香, 野妻智嗣, 吉田崇志, 児玉大介, 田中正和, 松浦英治, 久保田龍二, 高嶋博. Parkinsonism を合併した HAM の検討. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京。

児玉大介, 田中正和, 松崎敏男, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. HAM/TSP の分子標的治療. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京。

田中正和, 堂園美香, 吉田崇志, 野妻智嗣, 児玉大介, 松浦英治, 高嶋博, 久保田龍二. HAM における L-アルギニン有効性の作用機序について. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京。

松尾朋博. 特に高齢者を中心とした清潔間欠的導尿のスムーズな導入とカテーテル挿入と. 第 37 回日本老年泌尿器科学会. 現地, 和歌山市, 2024 年 5 月 17 日.

松尾朋博, 柿田聖太, 本多弘幸ら. 食塩摂取量と過活動膀胱との関連について. 第 31 回日本排尿機能学会. 郡山市, 2024 年 9 月 5 日.

森慎太郎, 松尾朋博, 柿田聖太ら. 過活動膀胱の診断予測ツールとしての尿中 Na/K 比の有用性に関して. 第 31 回日本排尿機能学会. 郡山市, 2024 年 9 月 5 日.

柿田聖太, 松尾朋博, 森慎太郎ら. 過活動膀胱に対する β 3 アドレナリン受容体刺激薬が腎機能および肝機能に及ぼす影響について. 第 31 回日本排尿機能学会. 郡山市,

2024 年 9 月 5 日.

本多弘幸, 松尾朋博, 柿田聖太ら. エクオール産生の有無は過活動膀胱の発症を抑制し, 治療効果にも影響する可能性がある. 第 31 回日本排尿機能学会. 郡山市, 2024 年 9 月 7 日.

松尾朋博. 夜間多尿/夜間頻尿と塩分摂取との関係について. 第 31 回日本排尿機能学会. 郡山市, 2024 年 9 月 7 日.

鴨居功樹. ぶどう膜炎・リンパ腫の最新知見. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08. 東京.

Zou Y, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Yang M, Miyagaki M, Ohno Matsu K. 東京における高齢者の HTLV-1 ぶどう膜炎の疫学. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08. 東京.

Yang M, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Zou Y, Miyagaki M, Ohno-Matsui K. Co-infection and Systematic Disease in Ophthalmic Patients with Retroviral Infection. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08. 東京.

鴨居功樹. HTLV-1 と眼疾患. 第 40 回 日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会 2024.05.11, 宮崎.

中島孝. 装着型サイボーグ HAL による神経・筋疾患と痙攣性対麻痺に対する機能再生治療. 第 65 回日本神経学会学術大会. シンポジウム. 東京国際フォーラム. 2024 年 5 月 30 日.

中島孝. 筋ジストロフィー、神経難病、認知症など治らない病気に対する QOL 向上そのためのケアとリハビリテーション(HAL を含む)のポイント. 難病における QOL と最新の医療を考える特別講演会. 国立病院機構北海道医療センター. 2024 年 6 月 28 日. 神経筋/成育センター・難病診療センター(北海道難病医療提供体制整備事業)共催.

中島孝. ロボットスーツ医療用下肢タイプの臨床と機能再生メカニズム-痙縮におけるリハビリテーション. 第 81 回日本リハビリテーション医学会関東地方会. 山梨県立図書館 1F イベントスペース. 2024 年 9 月 8 日.

中島孝. HAL 医療用下肢タイプの現状と今後の展開 ~神経筋難病、脳卒中、HAM など脊髄疾患を含めて~. 令和 6 年度鹿児島県リハビリテーション施設協議会研修会. 鹿児島県医師会館 4 階大ホール. 2024 年 11 月 3 日.

中島孝. 患者主体の QOL 評価法 「SEIQoL-DW」を学び、活かす実習セミナー. 11 月 23 日.

中島孝. 神経筋難病における生体信号反応式運動機能改善装置の実用開発により明確となったニューロリハビリテーションの原理と実際. 第 16 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会. シェーンバッハ・サボー (砂防会館). 2025 年 2 月 15 日.

山西祐輝, 宮上紀之, 越智智佳子, 伊藤裕子, 多田聰, 安藤利奈, 永井将弘. 神経疾患における髄液ネオプテリンの検討. 第 65 回日本神経学会学術大会. 現地開催, 東京, 2024 年 5 月 29 日-6 月 1 日.

竹永絢音, Mohammed E Choudhury, 宮上紀之, 阿部尚紀, 永井将弘, 西原佑, 田中潤也. ドパミン D1 様受容体作動薬 SKF-81297 は脳外傷モデルラットにおいて抗酸化および抗炎症作用を介して回復を促進する.
Ameliorative effects of a dopamine D1-like receptor agonist SKF-81297 on traumatic brain injury model rats by preventing neuroinflammatory reactions.
NEURO2024 /The 47th JNS /The 67th JSN /The 46th JSBP. 現地開催, 福岡, 2024 年 7 月.

梅北邦彦. HTLV-1 感染症～現状と課題～. 第 40 回日本皮膚悪性腫瘍学会. シンポジウム 3 (SY3-1) 【HTLV-1 と関連疾患】. シーガイアコンベンションセンター・サミット

ホール樹葉 (宮崎). 2024 年 5 月 11 日.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 日野正基, 大隈 和. 抗原提示細胞を介した cell-free in vitro HTLV-1 感染モデルの構築. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会. 現地開催, 富山, 2024 年 10 月 3 日～5 日.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 上野孝治, 大高 時文, 薬師寺祐介, 大隈和. 長期 follow された HAM 患者での疾患活動性バイオマーカーの探索. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会. 現地開催, 東京, 2024 年 11 月 8 日～10 日.

山野嘉久. 難病における臨床情報の構造化と二次利用に向けた制度設計. 第 1 回がん・難病全ゲノム合同班会議, 東京 (一部オンライン), 2024 年 3 月.

山野嘉久. HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂. HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, オンライン開催, 2024 年 2 月.

山野嘉久, 山岸 誠. 多層的オミクス解析による難病 HAM の新規治療シーズの同定と非臨床有効性評価. 令和 5 年度神経免疫班合同班会議, 東京, 2024 年 1 月.

山野嘉久, 佐藤賢文. HAM 患者脳脊髄液細胞のシングルセル解析による HAM 病態研究. 令和 5 年度神経免疫班合同班会議, 東京, 2024 年 1 月.

山野嘉久, 新谷奈津美. ウイルス感染細胞に起因した HAM の神経障害機構の解析. 令和 5 年度神経免疫班合同班会議, 東京, 2024 年 1 月.

山野嘉久, 松田文彦. HAM における宿主とウイルスのゲノム情報を用いた発症リスク予測法の確立. 令和 5 年度神経免疫班合同班会議, 東京, 2024 年 1 月.

山野嘉久. HAM の病態から臨床まで. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023

年 11 月.

佐藤知雄, 堀部恵梨佳, 岩永正子, 岡山昭彦, 相良康子, 三浦清徳, 内丸薫, 山野嘉久, 渡邊俊樹. 「HTLV-1 キャリア診療ガイドライン」作成の取り組み. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

鷹尾直誠, 永井香帆, 中島誠, 新谷奈津美, 久世裕太, 鈴木穣, 内丸薫, 山岸誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症に対する MEK 阻害剤の有用性に関する非臨床データ. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

中島誠, 永井香帆, 鷹尾直誠, 新谷奈津美, 久世裕太, 鈴木穣, 内丸薫, 山岸誠, 山野嘉久. 統合オミックス解析による HTLV-1 関連脊髄症の新規炎症誘導因子の探索. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

新谷奈津美, 山岸誠, 清原和裕, 浅原尚美, 中島誠, 荒谷聰子, 八木下尚子, 内丸薫, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 感染細胞に起因した HAM の神経障害機構. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

小関昭仁, 新谷奈津美, 山岸誠, 山内淳司, 八木下尚子, 鷹尾直誠, 高橋克典, 國友康夫, 本間大輔, 荒木一司, 内丸薫, 佐藤知雄, 山野嘉久. HAM における HTLV-1 感染細胞に対する EZH1/2 二重阻害剤の増殖抑制効果. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

堀部恵梨佳, 相良康子, 佐藤知雄, 八木下尚子, 渡邊俊樹, 山野嘉久. HTLV-1 キャリア電話相談の利用状況報告. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

堀部恵梨佳, 相良康子, 佐藤知雄, 八木下尚子, 渡邊俊樹, 山野嘉久. HTLV-1 感染者のオンライン相談に関する意向調査. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

菅田謙治, ジェックヤン タン, 高鳥光徳,

ペラル ホサイン, サムイル ラジブ, オムニア レダ, 徳永雅仁, 野村隼也, 増田曜章, 中島誠, 佐藤知雄, 植田光晴, 宇都宮 與, 山野 嘉久, 佐藤賢文. HLA-A24 拘束性の異なる Tax エピトープを認識する特異的 TCR の解析. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

王 宇, 沖田瑞帆, 緒方正男, 萩原朔太郎, 安井寛, 内丸薫, 高 起良, 宇都宮 與, 渡邊俊樹, 山野嘉久, 伊波英克.

Identification and validation of the novel ATL biomarkers. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向 ~難病プラットフォームについて~. 第 41 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 2023 年 11 月.

山野嘉久. 希少疾患における遠隔医療 ~ HTLV-1 脊髄関連証 (HAM)などを例に~. 第 41 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 2023 年 11 月.

山野嘉久. HAM の研究から見えてきた新たな神経感染症の未来. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

鷹尾直誠, 永井香帆, 中島誠, 新谷奈津美, 久世裕太, 鈴木穣, 内丸薫, 山岸誠, 山野嘉久. オミックス解析による HTLV-1 関連脊髄症に対する新規原因候補遺伝子の探索と MEK 阻害剤の有用性に関する非臨床データ. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

新谷奈津美, 山岸誠, 清原和裕, 浅原尚美, 中島誠, 荒谷聰子, 八木下尚子, 内丸薫, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症におけるウイルス感染細胞に起因した神経障害機構の解析. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

佐藤賢文, 菅田謙治, ベンジー タン ジェック タン, 中島誠, 佐藤知雄, 山野嘉久.

HAM 患者脳脊髄液のシングルセル解析. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

小関昭仁, 新谷奈津美, 山岸誠, 山内淳司, 八木下尚子, 本間大輔, 荒木一司, 内丸薰, 佐藤知雄, 山野嘉久. EZH1/2 二重阻害剤は HTLV-1 関連脊髄症における HTLV-1 感染細胞の増殖と過剰免疫応答を抑制する. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

山野嘉久. 腎移植における HTLV-1 感染症のリスクとその克服に向けた取り組み. 第 59 回日本移植学会総会, 京都, 2023 年 9 月.

山野嘉久. 「HAM 研究の基礎から臨床まで From Basic Research to Clinical Aspects of HAM Studies」. 第 64 回日本神経病理学会総会学術研究会/第 66 回日本神経化学会大会合同大会, 神戸, 2023 年 7 月.

山口泉, 八木下尚子, 古澤嘉彦, 丹澤和雅, 長崎正朗, 山野嘉久, 松田文彦. 難病レジストリ研究の運用構築支援とデータシェアリング推進（難病プラットフォーム活動報告）. 第 27 回日本医療情報学会春季学術大会, 沖縄, 2023 年 6 月.

山野嘉久. HAM に対する疾患レジストリーを活用した創薬の推進. 第 65 回日本小児神経学会学術集会, 岡山, 2023 年 5 月.

中山健夫. 痘学研究、EBM/診療ガイドライン、そしてシェアード・ディシジョンメイキングから共創へ. 第 31 回日本医学会総会東京国際フォーラム, 会頭特別企画 2 医療と臨床研究における 患者・市民参画 (PPI) , 東京, 2023 年 4 月.

兒玉大介, 田中正和, 松崎敏男, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. Involvement of LacNAc in HTLV-1 cell-to-cell contact infection and the discovery of its inhibitors. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023 年 5 月.

堂園美香, 重久彩乃, 吉田崇志, 野妻智嗣,

中村友紀, 橋口昭大, 松浦英治, 久保田龍二, 高嶋博. ネマリンミオパチー合併を認めた HAM/TSP の一例. 第 27 回日本神経感染症学会学術大会, 横浜市, 2023 年 10 月.

野妻智嗣, 堂園美香, 吉田崇志, 松浦英治, 田中正和, 児玉大介, 松崎敏男, 吉村明子. Pai Shun-Chang, Chen Hung-Jen, Yang Ya-Chien, 高嶋博, 久保田龍二. 日本と台湾における HTLV-1 ウィルスゲノム配列比較による分子疫学解析. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

堂園美香, 久保田龍二, 野妻智嗣, 児玉大介, 田中正和, 松浦英治, 高嶋博. HAM 末梢血における自然免疫細胞の検討. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

田中正和, 有島志保, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 三輪正直, 久保田龍二. HAM における PARP を介した神経細胞死の検討. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

兒玉大介, 田中正和, 松崎敏男, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. HTLV-1 感染者血清はヒト内在性レトロウイルス HERV-K10 に交叉応答する. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

久保田龍二. HAM の病態と治療. 第 96 回日本生化学会大会「HTLV-1 が引き起こす血液癌 (ATL) と脊髄症 (HAM) の現状と治療法開発」シンポジウム, 福岡, 2023 年 11 月.

Kodama D, Tanaka M, Matsuzaki T, Nozuma S, Matsuura E, Tamashima H & Izumo S. Involvement of LacNAc in HTLV-1 cell-to-cell infection and inhibitors. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023 年 5 月.

吉田崇志, 松浦英治, 野妻智嗣, 堂園美香, 児玉大介, 田中正和, 久保田龍二, 高嶋博.

HTLV-1 関連脊髄症/熱帯性痙攣性対麻痺
(HAM/TSP) の診断マーカーとしての腸腰筋の筋力低下と治療結果の比較 プロペンシティスコアマッチング解析を用いた検討. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会, 東京, 2023 年 9 月.

Matsuo T, Kawada K, Ueda Y, Mitsunari K, Ohba K, Imamura R. Significance of subjective symptom severity and assessment of fracture risk using predictive tools in patients with overactive bladder. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 神戸, ハイブリッド, 2023 年 4 月.

松尾朋博, 伊藤秀徳, 河田賢, 上田康史, 中村裕一郎, 安田拓司, 中西裕美, 光成健輔, 大庭康司郎, 今村亮一. 耳たぶのしわの有無と過活動膀胱との関連について. 第 36 回日本老年泌尿器科学会. 大津市, 2023 年 5 月.

鶴居 功樹. ぶどう膜炎のアップデート. 第 15 回福島眼科シンポジウム, 福島, 2023 年 8 月.

鶴居 功樹. HTLV-1 関連眼疾患の治療戦略. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

中島孝. HAL による人の神経可塑性への挑戦・機器と人との融合. メディカル DX・ヘルステックフォーラム 2023, オンライン配信, 2023 年 7 月.

中島孝. 神経筋疾患 (SMA 等) から神経感染症 (HAM 等) における HAL 医療用下肢タイプの臨床-こどもからおとなまで. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会. 横浜, 2023 年 10 月.

中島孝. HAL 医療用下肢タイプの背景理論と臨床実践. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会, 茨城, 2023 年 10 月.

中島孝. 装着型サイボーグ HAL による神経筋疾患に対する cybernic

neurorehabilitation. 第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2023 年 12 月.

平 明彦、村井弘之、長根百合子、鈴木重明、鵜沢頤之、増田眞之、寒川 真、南 尚哉、川口直樹、紺野晋吾、鈴木靖士、槍沢公明. わが国における難治性重症筋無力症の現状に関する検討. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023 年 5 月.

Murai H, Gwathmey K, Goebeler M, Broome CM, Bata-Csörgo Z, Newland A, Ulrichs P, Kerstens R, Guptill JT, Agha S, Jiang M, Howard JF. Safety profile of efgartigimod in participants with diverse IgG-mediated autoimmune diseases. 第 35 回日本神経免疫学会, 東京, 2023 年 9 月.

Keiko Tamaki, Yoshio Tsuboi. Association between brain white matter lesions on MRI and disease activity in HAM/TSP. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

細川裕子, 宮上紀之, 越智智佳子, 山西祐輝, 多田聰, 安藤利奈, 金子仁彦, 高橋利幸, 永井将弘. 当科で経験した抗 MOG 抗体関連疾患 (MOGAD) 7 例の検討. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023 年 5 月.

戸田淳平, 小野滉介, 宮木鉄平, 野村京平, 真鍋透, 安藤利奈, 山田貴代, 多田聰, 越智雅之, 三浦史郎, 永井将弘, 大八木保政, 鴻上繁, 高尾正樹. 当院における HAL® 医療用下肢タイプを用いた歩行リハビリテーションにより改善を認めた一例. 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023 年 6 月.

山本温人, 宮上紀之, Choudhury Mohammed E, 田中潤也, 永井将弘. GDF-15 はミクログリアを介した炎症を誘発する. Growth differentiation factor (GDF)-15 induced pro-inflammatory states of microglia. 第 64 回日本神経病理学会総会学術研究会 第 66 回日本神経化学会大会合同大会, 神戸, 2023 年 7 月.

Ayane Takenaga, Mohammed E Choudhury, Naoki Abe, Noriyuki Miyaue, Masahiro Nagai, Tasuku Nishihara, Junya Tanaka. Ameliorative effects of a dopamine D1-like receptor agonist SKF-81297 on traumatic brain injury model rats by preventing neuroinflammatory reactions. 第 101 回日本生理学会大会, 北九州, 2024 年 3 月.

梅北邦彦. 膜原病リウマチ性疾患と HTLV-1 感染症. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

梅北邦彦. 膜原病リウマチ診療と HTLV-1 感染検査の現状. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会, 長崎, 2023 年 11 月.

梅北邦彦, 岩尾千紘, 木村賢俊, 岩尾浩昭, 宮内俊一. 日本リウマチ学会認定教育施設を対象とした「HTLV-1 陽性関節リウマチ患者診療の手引 Q&A(改訂第 2 版)」の利活用に関する実態調査報告. 第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2023 年 4 月.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 森勢諭, 薬師寺祐介, 大隈和. 長期追跡された HAM 患者での疾患活動性バイオマーカーの探索. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2023 年 10 月.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 薬師寺祐介, 大隈和. 長期 follow HAM 患者での疾患活動性バイオマーカーの探索. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 京都, 2023 年 11 月.

佐々木信幸. 新たな脳卒中治療戦略-rTMS のもたらす未来-. 第 10 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2023 年 4 月.

佐々木信幸. 瘙縮治療における多面的アプローチ. GSK Spasticity Management Meeting Gifu, 岐阜, 2023 年 5 月.

佐々木信幸. 上限投与量の変更は痙縮治療に何をもたらしたか? ~400 単位超の使用経験から~. GSK Spasticity Conference in

Tokyo 2023, 東京, 2023 年 6 月.

佐々木信幸. 脳の可塑性刺激による人間機能回復の最先端. 練馬リハビリテーション講話会, 東京, 2023 年 6 月.

佐々木信幸. 上・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. ポツリヌス療法 expert セミナー, オンライン開催, 2023 年 7 月.

佐々木信幸. 労働者復職に向けた適切な脳症状評価と治療. 第 13 回日本脳血管・認知症学会, 東京, 2023 年 8 月.

佐々木信幸. 痙性麻痺に対する反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS). 第 10 回日本ポツリヌス治療学会学術大会, 名古屋, 2023 年 9 月.

佐々木信幸. 脳卒中の予後予測とリハビリテーション治療. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 宮崎, 2023 年 11 月.

佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)～脳機能障害に対する新たな戦略～. 埼玉医科大学病院群リハビリテーション科合同勉強会, 埼玉, 2024 年 2 月.

佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)のもたらす脳症状治療の未来. 医療人 2030, オンライン開催, 2024 年 2 月.

佐々木信幸. 脳卒中・麻痺 包括的治療戦略と地域連携. 脳卒中後遺症 麻痺治療 連携セミナー, 川崎, 2024 年 2 月.

佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS) のより幅広い適用に向けて. 第 15 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 佐賀, 2024 年 3 月.

常見真吾, 中川朋子, 菱田吉明, 横田健一, 久保ゆい, 小柳壯史, 西川徹, 曾根正勝. 甲状腺全摘術の周術期に無脈性心室頻拍をきたし心肺蘇生を要したバセドウ病の一例. 第 66 回日本甲状腺学会学術集会, 金沢, 2023 年 12 月.

山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向～難病プラットフォームについて～. 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会, 2022 年 11 月, パシフィコ横浜会議センター.

山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態生理に基づく治療. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂.

新谷奈津美, 荒谷聰子, 八木下尚子, 山内淳司, 鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の神経障害機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂 <ポスター発表>

佐藤知雄, 斎藤益満, 和田悠作, 長谷川寛雄, 松平崇弘, 今泉芳孝, 内丸薰, 渡邊俊樹, 山野嘉久. HTLV-1 クロナリティ定量検査 RAISING-CLOVA を用いた ATL 発症リスク評価法の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂.

鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司, 八木下尚子, 新谷奈津美, 荒谷聰子, 山野嘉久. HAM の排尿障害における臨床症状評価と治療効果判定の標準化スケールの確立. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂 <ポスター発表>

伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月 一橋大学一橋講堂<ポスター発表>.

堀部恵梨佳, 相良康子, 山野嘉久, 内丸薰, 浜口功, 渡邊俊樹. JSPFAD アンケート調査による HTLV-1 水平感染の現状. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂 <ポスター発表>

倉光球, 石塚賢治, 久保田龍二, 佐藤知雄,

山野嘉久, 橋倉悠輝, 梅北邦彦, 野坂生郷, 長谷川寛雄, 三浦清徳, 宇都宮與, 高起良, 相良康子, 菅麦田理英子, 佐竹正博, 浜口功. イムノクロマト法による新規 HTLV-1 抗体検査法の性能評価—多施設共同研究.

第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂.

菅田謙治, タン ベンジージェックヤン, ホサイン ベラル, ラジブ サミウルラジ, レダオムニア, 徳永雅仁, 野村隼也, 増田曜章, 佐藤知雄, 植田光晴, 宇都宮與, 山野嘉久, 佐藤賢文. HAM 患者末梢血および脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明と疾患サロゲートマーカーの探索研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂.

相良康子, 中村仁美, 堀部恵梨佳, 入田和男, 山野嘉久, 渡邊俊樹. ウェブサイト・トラフィック -HTLV-1 ウェブサイトの検証と解析-. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂<ポスター発表>

松浦英治, 野妻智嗣, 田代雄一, 安藤匡宏, 平松有, 横口雄二郎, 崎山雄介, 橋口昭大, 道園久美子, 東桂子, 松崎敏男, 児玉大介, 田中正和, 山野嘉久, 久保田龍二, 高嶋博. HAM/TSP の運動障害に対する L-アルギニンの効果を評価する第 2 相臨床試験 (特定臨床研究) . 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022 年 11 月, 一橋大学一橋講堂.

山野嘉久. 難病領域におけるリアルワールドデータ活用の動向～難病プラットフォームを例に～. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022 年 11 月, ホテルハマツ.

山野嘉久. HAM 病態研究の最近の知見と今後の展望. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022 年 10 月, 出島メッセ長崎.

伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 西村直, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第

63回日本神経学会学術大会, 2022年5月,
東京国際フォーラム <ポスター発表>

新谷奈津美, 荒谷聰子, 八木下尚子, 山内淳司, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態形成機構. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022 年 5 月, 東京国際フォーラム.

大山綾音, 浪岡靖弘, 金子仁彦, 普野直人, 伊丹亮, 村山圭, 三須建郎, 青木正志.
RCVS を併発したm9176T>C 変異による成人発症 Leigh 脳症の 1 例. 神経学会東北地方会, 2022 年 3 月.

岡田友里, 保坂龍彦, 渡部聰, 四條友望, 井泉瑠美子, 三須建郎, 青木正志, 八丁目直和, 小西里沙, 市村裕輝, 沖山奈緒子.
COVID-19 後に皮膚筋炎を発症した一例. 神経学会東北地方会, 2022 年 3 月.

金子仁彦, 生田目知尋, 松本勇貴, 高井良樹, 三須建郎, 青木正志. COVID19 ワクチン後神経合併症の治療. 日本神経治療学会, 2022 年 11 月.

Tsuji Y, Tamai M, Koga T, Fujii H, Kawano M, Kawakami A. Effect of smoking on serum IgG4 during health checkups in Nagasaki Island Study (NaIS). 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会. ワークショップ, 横浜, 2022 年 4 月.

Tsuji Y, Tamai M, Nonaka F, Kawashiri SY, Arima K, Kawakami A. Investigation of oral microbiome in rheumatoid arthritis regarding to ACPA and HLA DRB1*SE: Nagasaki Island Study. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会. ワークショップ, 横浜, 2022 年 4 月.

玉井慎美, 野中文陽, 川尻真也, 有馬和彦, 青柳潔, 川上純. 関節リウマチの発症予測の試み:Nagasaki Island Study(NaIS). 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会.

ポスター, 横浜, 2022 年 4 月.

辻良香、玉井慎美、古賀智裕、藤井博、川野充弘、川尻真也、野中文陽、青柳潔、前田隆弘、川上純. ラージスケール健診コホート対象者での血清 IgG4 高値におけるリスク因子の抽出. 第 30 回日本シェーグレン症候群学会学術集会, 金沢, 2022 年 9 月.

児玉大介, 田中正和, 久保田龍二. HAM 診断に適した髄液中抗 HTLV-1 抗体検査法. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, 2022 年 5 月.

土元香菜子, 森理紗, 田中正和, 児玉大介, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 久保田龍二. HTLV-1 関連疾患における末梢血と気管支肺胞洗浄液中の感染細胞数の比較と肺胞移行能の検討. 第 26 回日本神経感染症学会学術大会, 鹿児島, 2022 年 10 月.

児玉大介, 田中正和, 松崎敏男, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. 抗 HTLV-1 抗体髄液検査は CLIA 法が適している. 第 26 回日本神経感染症学会学術大会, 鹿児島, 2022 年 10 月.

野妻智嗣, 松浦英治, 堂園美香, 田中正和, 児玉大介, 松崎敏男, 久保田龍二, 高嶋博. HTLV-1 感染細胞を標的とした HAM でのバイオマーカー探索. 第 26 回日本神経感染症学会学術大会, 鹿児島, 2022 年 10 月.

田中正和, 有島志保, 三輪正直, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. HAM における PARP 活性化を介した神経細胞死の検討. 第 26 回日本神経感染症学会学術大会, 鹿児島, 2022 年 10 月.

野妻智嗣, 堂園美香, 松浦英治, 田中正和, 児玉大介, 松崎敏男, Steven Jacobson, 久保田龍二, 高嶋博. HAM 患者の髄液での疾患特異的 TCR レパトアの同定. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

土元香菜子, 田中正和, 森理紗, 児玉大介, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 久保田龍二. HTLV-1 関連疾患別における肺胞移行能の

検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

兒玉大介, 田中正和, 松崎敏男, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 出雲周二, 久保田龍二. 細胞間接触感染に関与する二糖糖鎖 LacNAc と cell-to-cell 接触感染阻害薬の発見. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

田中正和, 有島志保, 野妻智嗣, 松浦英治, 高嶋博, 三輪正直, 出雲周二, 久保田龍二. HTLV-1 感染による PARP を介した神経細胞死の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

松浦英治, 野妻智嗣, 東桂子, 田中正和, 久保田龍二, 高嶋 博. HPV ワクチン後脳症患者に見られるサイトカインの上昇について. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, 2022 年 5 月. <ポスター発表>

松浦英治. HTLV-1 関連脊髄症の臨床、第 26 回日本神経感染症学会学術大会. 第 26 回日本神経感染症学会学術大会, 鹿児島, 2022 年 10 月.

松尾朋博, 河田賢, 上田康史, 伊藤秀徳, 光成健輔, 大庭康司郎, 宮田康好. 清潔間欠的自己導尿に使用するカテーテルの違いが患者の生活の質に及ぼす影響. 第 29 回日本排尿機能学会, 現地開催, 札幌, 2022 年 9 月.

伊藤秀徳, 松尾朋博, 光成健輔, 大庭康司郎, 宮田康好. 後期高齢者におけるミラベグロンの有用性の検討. 第 35 回日本老年泌尿器科学会, 口頭, ハイブリッド, 甲府, 2022 年 6 月.

鴨居功樹. HTLV-1 と眼疾患. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

鴨居功樹. HTLV-1 ぶどう膜炎・ATL 関連眼病変. 第 8 回日本 HTLV-1 学術集会, 東京, 2022 年 11 月.

鴨居功樹. HTLV-1 関連眼疾患における分

子・イメージングバイオマーカーの総合的解析, 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, 2022 年 12 月, 東京.

中島孝. HAL 医療用下肢タイプによるサイバニクス治療:digest & update. 第 11 回日本脳神経 HAL 研究会. オンライン, 2022 年 12 月.

Murai H, Suzuki S, Fukamizu Y, Osawa T, Kikui H, Utsugisawa K: Real-world effectiveness of eculizumab in generalized myasthenia gravis in Japan: 1-year post-marketing surveillance data. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, 2022 年 5 月.

草柳世奈, 山岸誠, 久世裕太, 鈴木佳子, 水池潤, 登坂充, 田中勇悦, 中野和民, 渡邊俊樹, 鈴木穂, 内丸薰. シングルセル RNA／エピゲノム解析で得た HTLV-1 感染初期の知見. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂、東京、2022 年 11 月.

登坂充, 山岸誠, 水池潤, 草柳世奈, 久世裕太, 田中勇悦, 渡邊俊樹, 鈴木穂, 内丸薰. HTLV-1 感染細胞で形成される Tax-転写因子複合体の同定と機能的意義の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月.

中島誠, 川俣豊隆, 南谷泰仁, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 内丸薰. Membrane CD30 と Soluble CD30 の二重解析による CD30 発現評価法の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月. <ポスター発表>

瀬賀亜里沙, 中島誠, 山岸誠, 水池潤, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 内丸薰. ATL における CD30 発現機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月. <ポスター発表>

中野和民, 田部亜季, 高橋良明, 山本菜央佳, 津本浩平, 渡邊俊樹, 内丸薰. 新規 CADM1 抗体-FoxM1 阻害剤複合体による ATL 細胞への標的治療の試み. 第 8 回日本

HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京,
2022 年 11 月.

田部亜季, 高橋良明, 那須智博, 由井杏奈,
中木戸誠, 内丸薫, 渡邊俊樹, 津本浩平, 中
野和民. 新規抗 CADM 1 抗体を用いた成人
T 細胞白血病・リンパ腫細胞に対する抗体
薬物複合体の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学
会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月.
<ポスター発表>

田部亜季, 田中勇悦, 那須智博, 内丸薫, 中
野和民, 津本浩平, 中木戸誠, 由井杏奈, 渡
邊俊樹. 成人 T 細胞白血病リンパ腫を標的
とした新規抗体薬物複合体の開発. 日本レ
トロウイルス研究会 2022, 2022 年 7 月.

Yamada A, Yasunaga J, Sunagawa J,
Nakaoka S, Iwami S, Kogure Y, Kataoka
K, Nakagawa M, Iwanaga M, Uchimaru
K, Utsunomiya A, Koh K, Watanabe T,
Nosaka K, Matsuoka M. Evaluation of the
risk of HTLV-1-associated diseases by
analyzing the host immune responses and
provrial load. 第 84 回日本血液学会学術集
会, 福岡国際会議場、福岡、2022 年 10 月.

中島誠, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 堀江良一, 内
丸薫. CD30 シグナルが誘導する染色体不安
定性の促進機構. 第 81 回日本癌学会学術集
会, パシフィコ横浜、横浜、2022 年 9 月.

玉木慶子, 坪井義夫. 急速進行性 HTLV-1
関連脊椎症患者の頭部 MRI 大脳皮質病変 3
例の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集
会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月. <ポス
ター発表>

吉田暉, 山西祐輝, 多田聰, 宮上紀之, 安藤
利奈, 永井将弘. SARS-CoV-2 ワクチン接種
後に急性脊髄炎を起こした 2 例. 第 63 回日
本神経学会学術大会, ハイブリッド開催, 東
京, 2022 年 5 月. <ポスター発表>

宮上紀之, 吉田暉, 山西祐輝, 多田聰, 安藤
利奈, 永井将弘. 抗 AQP4 抗体陽性
NMOSD および類縁疾患における髄液ネオ

プレリン値の検討. 第 63 回日本神経学会学
術大会, ハイブリッド開催, 東京, 2022 年 5
月. <ポスター発表>

木村賢俊, 工藤理沙, 岩尾千紘, (中略), 梅
北邦彦, 他. ヒト T 細胞白血病ウイルス 1
型(HTLV-1)陽性関節リウマチ患者における
インターフェロン γ 遊離試験(IGRA)に関する
検討. 日本臨床リウマチ学会, 北海道, ハ
イブリッド, 2022 年 10 月.

木村賢俊, 工藤理沙, 力武雄幹, (中略), 梅
北邦彦, 他. HTLV-1 陽性膠原病患者におけ
る潜在性結核感染症検査:インターフェロン
 γ 遊離試験(IGRA)に関する検討. 第 8 回日
本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京,
2022 年 11 月.

橋場弥生, 梅北邦彦, 木村賢俊, 他.
HTLV-1 陽性関節リウマチ患者における, 入
院を要する重症感染症の高発症率について:
症例対照観察研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学
会学術集会, 一橋講堂, 東京, 2022 年 11 月.

梅北邦彦. HTLV-1 と臨床検査. 第 51 回九
州臨床検査精度管理研究会, 特別講演, 福
岡, ハイブリッド, 2023 年 2 月.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 上野孝治, 大高時
文, 大隈和. 抗原提示細胞を介した *in vitro*
HTLV-1 感染モデルの構築. 第 26 回日本神
経感染症学会総会・学術大会. 現地開催, 鹿
児島県医師会館, 2022 年 10 月.

竹之内徳博, 中嶋伸介, 上野孝治, 大高時
文, 大隈和. 抗原提示細胞を介した新規 *in*
vitro HTLV-1 感染モデルの構築. 第 8 回日
本 HTLV-1 学会学術集会, 一橋講堂, 東京,
2022 年 11 月. <ポスター発表>

佐々木信幸. 上肢・下肢痙縮に対する 400
単位超使用と院内連携. 第 52 回日本リハビ
リテーション医学会 近畿地方会, ハイブリ
ッド開催, 三ノ宮コンベンションセンター,
2023 年 3 月.

佐々木信幸. 脳卒中に対する治療的 rTMS.
第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季

学術集会, 現地開催, 岡山コンベンションセンター, 2022 年 11 月.

佐々木信幸. 脳疾患後の復職に向けて. 第 12 回日本脳血管・認知症学会総会, ハイブリッド開催, 大崎プライトコアホール, 2022 年 8 月.

佐々木信幸. 「脳神経領域」の新アプローチ 機能回復を最大限引き出す rTMS～離床+反復磁気刺激で導く治療の進め方～. 第 12 回日本離床学会全国学術大会, インターネット配信, 2022 年 7 月.

佐々木信幸. 脳卒中の予後予測に関する現状と課題. 第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 現地開催, パシフィコ横浜ノース, 2022 年 6 月.

佐々木信幸. 瘙縮治療のプロフェッショナルを目指して. 第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 現地開催, パシフィコ横浜ノース, 2022 年 6 月.

池田七海, 中川朋子, 川名部新, 菅田吉明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 山野嘉久, 曽根正勝. MMI によるバセドウ病治療中にぶどう膜炎を発症した HAM の 1 例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 東京, Web, 2022 年 11 月.

〔講演会等〕

山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 6 年度 神奈川県性と健康の相談支援者研修, 2025 年 2 月 5 日, オンライン.

山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊娠婦・患者への支援. 令和 6 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2024 年 7 月 17 日, オンライン.

山野嘉久. HAM の基礎知識から最新情報まで. 2024 年長崎県 HTLV-1 母子感染防止に関する講演会, 長崎(ハイブリッド開催), 2024 年 2 月.

山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 5 年度 神奈川県 性と健康の相談支援

者研修会, オンライン開催, 2024 年 2 月.

山野嘉久. HTLV-1 対策における社会共創～研究者と手を携えて～ —HAM ねつと、JSPFAD、キャリねつとでの経験と実績. 2023 年世界 HTLV デー記念講演会, 京都, 2023 年 11 月.

患者と連携した感染症の克服. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会 市民公開講座共催, 横浜, 2023 年 10 月.

山野嘉久. 「HTLV-1 母子感染の予防と対策」. 令和 5 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 山梨, 2023 年 8 月.

佐々木信幸. 脳卒中リハビリテーションの現在～未来～反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)～. 能登脳卒中地域連携 申請復興祈願講演会, 金沢, 2024 年 3 月.

山野嘉久. 患者レジストリを活用した医療イノベーションへの挑戦～治療そして予防まで～, 令和 4 年度第 3 回聖マリア病院特別講演会, 2023 年 3 月 20 日, 聖マリア病院.

山野嘉久. これからの難病医療と産学連携. RDD medU-net フォーラム（世界希少・難治性疾患の日）, 2023 年 3 月 19 日, オンライン開催.

山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 4 年度性と健康の相談支援者研修（神奈川県主催）, 2023 年 2 月 8 日, オンライン開催.

山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 4 年度性と健康の相談支援者研修（神奈川県主催）, 2023 年 2 月 8 日, オンライン開催.

山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識と HAM について～HTLV-1 陽性と判明した妊娠への説明例も含めて～（鹿児島県・鹿児島県医師会主催）, 2023 年 1 月 22 日, ハイブリッド開催.

山野嘉久. 薬物治療・開発学, 愛媛大学 3

学年講義, 2023 年 1 月 12 日, 愛媛大学.

山野嘉久. 難病の全ゲノム解析等実証事業の現状と展望. 第 7 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2022 年 7 月 9 日, ハイブリッド開催.

山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊娠婦・患者への支援. 令和 4 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2022 年 7 月 6 日, Web 開催.

山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症. 第 1 回神経免疫疾患診療医育成セミナー, 2022 年 6 月

18 日, 一橋大学一橋講堂.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし